

昭和37年度 *美幌*

地力保全基本調査成績

昭和三十七年度

地力保全基本調査成績

北海道立農業試験場



北海道立農業試験場

37年
美幌地域 美幌域区

1 地区の概況

1) 位目及び調査面積

(1) 位置 北海道網走郡美幌町

本年度は本町の過年度調査の残部を一括して行った。

(2) 調査面積(ha)

郡市町村名	畑 総 面 積			調 査 対 象 面 積			過 年 度 調 査 面 積		
	普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計
美 幌 町	2,629	0	2,629	8,196	0	8,196	3,600	0	3,600

本年度調査面積			次年度以降調査計画面積			備 考
普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計	
4,500	0	4,500			0	

2) 気 象

網 走 測 候 所 (1891~1950年の平均)

項目	月 別	4	5	6	7	8	9	10	11
	気 平 均		3.4	8.6	12.9	17.5	20.1	15.8	9.9
温 最 高 平 均		8.0	13.2	16.8	21.0	23.4	19.9	14.6	7.1
(°) 最 低 平 均		-0.5	4.1	8.7	13.5	15.9	12.0	5.8	-0.7
降 水 量 (mm)	平 均	52.6	71.3	65.1	95.8	86.9	131.4	94.4	81.0
	1日最多量	55.1	77.6	62.7	87.7	106.6	103.8	70.4	58.5
湿 度 (%)		75.0	77.1	87.4	86.5	85.9	83.3	76.8	73.6
風 速 (m/s)		3.4	3.1	2.2	1.9	2.1	2.6	3.2	3.6
最 多 風 向		S	S	S	S	S	S	SW	SW
日 照 時 数 (時)		190.8	188.0	199.7	199.4	209.0	174.8	175.8	127.7

晩霜5月24日、初霜10月12日

(美幌地区農業改良普及所観測)

旬別平年値 摂氏(°)

月	旬	最高 気温	最低 気温	平均 気温	積算 温度	降水量 ミリメートル	最 多 風 向	平均 風 速 m	降雪量 cm	日 照 時 間	旬内1日当 日照時間
1	上	-29	-164	-9.6	-959	-	南西	09	255	312	31
	中	-29	-152	-9.1	-911	-	西南西	09	362	320	32
	下	-23	-164	-9.2	-998	-	南西	10	445	334	30
2	上	-04	-140	-7.3	-73.1	-	南西	15	417	356	36
	中	-18	-156	-8.6	-85.1	-	北西	1.6	425	321	32
	下	-01	-141	-7.1	-602	-	南西	12	425	329	41
3	上	15	-112	-4.9	-45.4	-	南西	10	410	362	36
	中	36	-80	-2.1	-20.9	-	南東	17	352	292	29
	下	47	-52	-0.5	-32	-	北東	15	128	364	33
4	上	107	00	4.7	46.6	6.6	南東	1.4	42	555	56
	中	115	-05	5.5	53.5	10.7	南西	2.1	02	502	50
	下	145	1.6	7.9	79.5	10.4	南西	3.7	00	648	65
5	上	167	26	9.4	93.5	9.0	南南西	2.7	-	482	48
	中	190	42	11.4	113.6	26.2	南南東	2.3	-	49.1	49
	下	197	62	12.7	140.2	31.2	南東	2.8	-	420	45
6	上	198	7.6	13.6	136.0	17.4	南南東	1.9	-	424	42
	中	214	9.1	15.2	152.2	17.7	東	1.7	-	480	48
	下	223	9.9	15.8	157.5	22.1	北東	1.4	-	574	57
7	上	224	11.9	17.3	172.1	22.9	南東	1.4	-	321	32
	中	260	14.3	19.9	198.5	16.8	南南東	1.2	-	554	55
	下	268	15.4	21.9	237.1	35.1	北東	1.4	-	389	35
8	上	257	16.0	20.9	209.5	32.9	南	0.9	-	37.4	37
	中	264	16.0	21.4	212.5	55.3	南西	0.9	-	366	37
	下	248	14.4	19.6	213.4	32.4	北東	1.4	-	27.7	25
9	上	231	12.2	18.1	181.4	27.5	南南東	1.4	-	334	33
	中	232	11.1	17.1	164.3	40.6	南西	1.9	-	50.1	50
	下	199	7.5	14.0	139.5	28.3	南西	1.3	-	39.3	39
10	上	190	5.7	12.0	123.4	30.1	南西	1.1	-	42.6	43
	中	162	3.5	9.9	99.0	22.4	南南西	1.2	-	49.2	49
	下	139	1.3	7.5	83.0	17.8	南西	1.7	-	44.5	40
11	上	116	0.3	5.8	58.5	16.3	南南西	1.9	-	37.8	38
	中	67	-7.0	1.2	12.3	5.8	南西	1.6	82	358	36
	下	43	-7.9	-2.0	-13.6	3.2	南西	1.8	39	352	35
12	上	3.1	-9.0	-2.5	-25.7	10.8	南南西	1.1	3.6	25.1	25
	中	13	-11.2	-3.5	-34.9	-	南南西	1.0	14.8	34.3	34
	下	-0.8	-15.1	-5.9	-62.8	-	南西	1.4	15.6	26.8	24
年	計	442.1	-0.4	23.1	2364.8	549.3		53.7		1445.8	
	平均	12.5	-	6.4				1.5		40.2	40
観測 期間	計	4008	1705	2860	29058	4959		31.3		846.1	
	平均	2.11	9.0	15.0				1.6		44.5	40
観測期間		昭25~34年 10カ年平均値				昭28~34年 7カ年平均値					

初霜期	10月7日	晩霜期	5月24日
初雪期	11月3日	積雪期間	192日
根雪始	12月18日	無雪期間	173日
融雪期	5月29日	無霜期間	135日
晩雪期	4月25日		

本地区は網走市より50~40kmの内陸にあつて、オホーツク海斜面地帯と北見内陸地帯の中間に位置しているが、気象的にみてオホーツク海流、海霧などの影響が大きく、7月~8月に一時可成の高温を記録することはあるが、全般に年間を通じて冷涼な気候である。

従つて初夏に霜害等の低温に見舞われることがあり、このために豆類の被害などは大きく、また、発達したオホーツク海高気圧の停滞により、5~6月初旬にかけて西南の風が吹き続き、表土や種子の飛散を起し減収を来すことが多い。

また、降水量が少なく、農耕期間における最近の平均記録に依れば495.9mmで500mmに満たない状態であり、屢々旱魃に襲われ、燕麦、麦類などはその被害が大きい。しかしながら7月下旬~8月上旬にかけて、時折高温と相俟つて集中豪雨があり、Gully-erosionが発生することが多い。

秋の収穫時には晴天の日が続き、農作業は順調に行なわれる。初霜は一般に10月初旬であるが、稀には9月中旬に結霜することもあり、豆類、特に小豆等は大きい被害を蒙ることがある。

この様なことで本地区の気象が時に農業に阻害となつていられるのは

- ① 春季の季節風による風蝕
- ② 農耕期間中の寡雨
- ③ 集中豪雨による水蝕
- ④ 時期外れの晩霜、初霜

等で、気象的に安定性を欠いていられると云える。

③ 土地条件

(1) 地形：昭和37年度の調査地は大部分が緩傾斜~平坦地であり、急傾斜地の分布面積は極少ない。本調査地の地形を大別すると次の様になる。

- ① 網走川支流に沿つて山合いを西南に延び、標高も80~120mと漸次増す平坦~緩傾斜の山間地。
- ② 網走川、美幌川兩岸地帯に分布する低標高(20~80mm)平坦地。
- ③ 調査地内で最も分布が広く、本町北東部の大部分を占める平坦~緩傾斜の台地(標高80~160m)。
- ④ 本町中南部に位置する急峻な波状性台地(標高120~160m)。

c) 耕種肥培費及収量 (kg/a)

作物	主な品種	元 肥				追 肥			収 量
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
燕 麦		0.2~0.3	0.7~0.8	0.4~0.5	-	-	-	-	22.0~28.0kg
大 豆		0.1~0.2	0.6~0.8	0.3~0.4	-	-	-	-	15.6~20.0kg
馬鈴薯		0.5~0.8	0.7~0.8	0.5~0.7	1.200	-	-	-	210.0~270.0kg
甜 菜		0.7~1.1	1.0~1.5	0.3~0.6	1.200	0.2	-	-	240.0~400.0kg

b) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳 牛		豚	山 羊	綿 羊	鶏
		成 牛	育成牛				
飼 育 戸 数	157	46	36	41	4	92	69
飼 育 頭 数	270	181	60	145	4	248	174.2
一戸当平均飼育頭数	2.0	3.9	1.7	3.5	1	2.7	25.2

e) 農機具及び施設 (137戸の総数)

種 類	台 数	種 類	台 数
傾斜地用ブラウ	0	噴霧器(動力)	92
同上カルチベーター	1	(背負)	4
双耕ブラウ	5	モ ー ア	11
双輪ブラウ	0	レ ー キ	6
再懇ブラウ	105	尿 撒 布 機	18
新懇ブラウ	13	肥 料 播 機	132
カルチベーター	126	播 種 機	158
デスクハロー	98	脱 穀 機	125
噴霧器(畜力)	16		

f) 労働の関係

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
6.4人	2.6人	1人(32戸のみ)	73.2人(70戸のみ)

営農の動向：過去に於いては比較的恵まれた経営面積を持ちながら、冷害等による経営不振に度々悩まされてきたが、近年に至り、危険度の高い穀穀経営から家畜を取り入れた混同経営に移行しつつあつて、年々乳牛、豚、鶏等の飼養頭数が増加している。また、町、普及所、農協などもその体制確立の為に積極的に働きかけており、年をおつてその実績は上つている状態である。

しかし、経営の切替にかかわる問題も多少内在して居り、有芯即安定した経営とは云い切れ

ず、飼養技術の問題や、作物と家畜の効率的な組合せの問題、また此等と関係して労働力不足の問題など、今後の課題ともなつている。しかしながら此等の諸問題は一つの方向を得ている現在、実施上の問題であり、逐次解決されていくものと思われる。

その他：本町の中心産業は勿論農業であり、従つて甜菜製糖工場、乳加工場、亜麻製織工場等、農畜産関係の工場もあり、今後において此等とのつながりにより特色ある地域農業に発展していくものと思われる。

2 土壌の類型区分及び説明

(1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(i) 土壌統一覧

土 壌 統 名	色 層 序	腐植層序	礫砂層を混在する砂層	酸 化 物 沈 積 物	表 土 の 性 質	母 材 堆 積 様 式
高 野 中 央	YR / YR	表層腐植層	なし	なし	中粒質	非固結水成岩 海成洪積
登 栄 中 央	YR / YR	表層多腐植層	なし	なし	中粒質	非固結水成岩 海成洪積
登 栄 南	YR / YR	表層腐植層	なし	なし	中粒質	非固結水成岩 海成洪積
美 富 西	YR / YR	全層多腐植層	なし	あり	中粒質	集 積 (亜泥炭)
野 崎 南	YR / YR	表層腐植層	あり	あり	中粒質	非固結水成岩 河成洪積
豊 幌 南	YR / YR	表層多腐植層	なし	なし	中粒質	非固結水成岩 海成洪積
豊 幌 中 央	YR / YR	表層腐植層	あり	なし	中粒質	非固結水成岩 海成洪積
栄 森	YR / YR	表層腐植層	なし	あり	細粒質	水 積
美 和 東	YR / YR	なし	あり	なし	中粒質	水 積
美 和 西	YR / YR	表層腐植層	あり	あり	細粒質	水 積
古 梅 南	YR / YR	表層多腐植層	なし	なし	中粒質	非固結水成岩 水積 海成洪積
古 梅 西	YR / YR	表層腐植層	あり	なし	粗粒質	水 積

土 壤 統 名	色 層 序	腐 植 層 序	緑 砂 層 腐 植 層 混 在 する 砂 層	前 沈 積 物	表 土 の 性	母 材 堆 積 様 式
古 梅 中 央	YR / YR	表 層 腐 植 層	なし	なし	中 粒 質	非 固 結 水 成 岩 河 成 洪 積
瑞 治	YR / YR	全 層 多 腐 植 層	なし		中 粒 質	ヨシ、ソノキ 集 積 (泥 炭)

(2) 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑 面 積 (ha)	備 考
高 野 中 央 - 3 区	III nIt·p·f·e	2,555	
" - 4 区	III n·eIt·p·f·S	140	
登 栄 中 央 - 2 区	II p·n·e	120	
登 栄 南 - 2 区	II n	170	
美 富 西 - 2 区	III WIf·n	130	
" - 3 区	III WIt n	65	
野 崎 南 - 野 崎 南	III W·nIt·d·g·f	90	
豊 幌 南 - 1 区	II (W)n·S·e	40	
" - 2 区	III n	30	
豊 幌 中 央 - 豊 幌 中 央	III n·S·eIt·d·p·(W)·f	15	
栄 森 - 栄 森	II t·p·n	240	
美 和 東 - 美 和 東	II t·g·W	190	
美 和 西 - 美 和 西	II t·p·W	60	
古 梅 南 - 古 梅 南	III nIt·p·e	60	
古 梅 西 - 古 梅 西	II t·g·p·f·n	25	
古 梅 中 央 - 古 梅 中 央	III WIt·n	340	
瑞 治 - 瑞 治	III W·nIt·p·f	230	

2) 土 壤 統 別 説 明

高 野 中 央 統

(1) 土 壤 統 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

第1層は厚さ13~20cmの範囲で16~17cmのものが多く、腐植含量は5~10%、土性はLで礫はない。色は10YRの彩度1~3、明度2~3で、発達程度弱の細粒状構造であり、軽微な土壌である。緻密度は5~10で頗る疎、pH(H₂O)は5.4~6.7であるが6前後の所が多い。下層との境界は稍明瞭である。

第2層は20cm内外のものが多くが場所により差がある。腐植含量は3~5%で、所に依つ

ては2%以下の場合もある。土性はL~SL(中粒質と粗粒質であるが粒径組成の差は僅少であり、またこれらの分布が入り乱れているため区分に難く、本質的には大差ないので一括した)で礫はない。色は10.0YRの彩度3~6、明度3~6の範囲であるが、概して彩度4、明度3~4のものが多い。構造は概して無構造(massive)なものが多い。緻密度は12~18で疎、PH(H₂O)は5.6~6.9の範囲であるが6前後のものが多い。下層へは漸変する。

以下第3層(極部の地点で4層が認められる所もあるが、その形態、性質は殆んど同一に等しい)で、腐植含量は2%以下、土性はL~SLで浮石を含む所もある。色は10.0YRの彩度3~8、明度5~7の範囲であるが、全般に彩度6、明度6前後のものが多い。構造は無構造(massive)である。緻密度は15~23で疎~中、PH(H₂O)は5.6~6.9。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道網走郡美幌町字豊幌(試坑16、56年度の31)

第 1 層	0 ~ 20 cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/3)のL、礫はない。発達程度中の細粒状構造、緻密度5で頗る疎。PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界稍明瞭。
第 2 層	20 ~ 43 cm	腐植に富む暗褐(10YR 5/4)のL、発達程度弱の細粒状構造であるがmassiveに近い。礫はなく、緻密度は12で疎、PH(H ₂ O)は5.7、調査時の湿り半乾、境界漸変
第 3 層	43 ~ 100 < cm	腐植を欠く明黄褐(10YR 7/6)のSL、礫はない。構造はmassiveで細小孔隙を含む。緻密度は15で疎、PH(H ₂ O)は6.2、調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0 ~ 20	6.8	6.6	49.1	43.7	0.4	L	67.5	2.50	3.86	0.42
2	20 ~ 43	7.9	8.5	53.7	33.6	4.3	L	69.7	2.52	3.21	0.54
3	43 ~ 100 <	4.0	17.9	56.5	23.8	1.9	SL			0.52	0.10

炭 素 率	腐 植 %	PH		置 換 酸 度 Yl	置 換 容 量 me / 100g	置 換 性 塩 基 me / 100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
9	6.7	6.0	5.5	0.31	26.4	14.5	0.7		54.9	1.876
9	5.5	5.9	5.3	0.26	22.4	10.4	1.0		46.4	2.092
5	0.9	6.2	5.3	0.23	6.3	4.1	0.7		65.1	6.50

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接又は、類似する統としては、登榮中央統、登榮南統、豊幌南統、豊幌中央統、古梅南統等があるが、登榮中央統、豊幌南統とは母材は同じであるが本統が表層時積層であるのに対し、これらの統は表層多層積層で層積順序が異なり、豊幌中央統には硬層があるが本統にはこれがなく、また古梅南統には埋没層が有るので区別される。また登榮南統の下層の土壌は細粒質もしくは、これに近いが、本統の下層土性は粗粒質もしくはこれに近いので本統と区別される。

A-5 母材 非固結水成岩(深灰質、浮石混)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高は60~250mに亘り、段丘地、台地、丘陵地に分布する。大部分が平坦地もしくは緩傾斜地であるが、一部に急傾斜地となつている所もある。

C 気候

年間を通じて冷涼、季節風による風蝕の害が大きい。

年平均雨量855.8mm、年平均気温5.6℃(網走測候所)

D 植生及び利用状況

調査地区内は畑地として利用され、豆類を主に燕麦、小麦、甜菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されているが、隣接する急傾斜地帯には既に唐松などを植樹している所が多い。

E 農業上の留意事項

腐植に乏しいので有機物施用が必要であり、また、風蝕の害が大きいので、これの防止に努めなければならない。

F 分布

網走郡美幌町字登榮、豊幌、美富、の一部と字古梅、豊富、報徳、日並、田中、福住、駒生の大部分。

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
高野中央-3区	III n II t. p. f. e
高野中央-4区	III n. e II t. p. f. s

② 土壌区別説明

高野中央-3区

元性分級式

土壌生成可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕土の難易	耕土の粘着性	表土の風乾性の優劣	土壌の乾燥性	土壌の保水性	土壌の自然肥力	土壌の固定力	土壌の塩基状態	養分交換性	苦土	加里	有機炭素	酸	物理的障害性	化学的障害性	物理的障害性	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性								
t	d	g	p		W		f		n		i	S																			
III	II	I	I	II	2	1(2)	I	1	1	1	II	2	2	1	III	1	2	3	2	1	I	1	1	I	-	-	-	II	2	2	2
簡略分級式 III n II t. p. f. e																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は高野中央統に属する。表土の厚さは20cm前後であるが有効土層は1m以上で深い。土性は中粒質で表土に砂を含まないが軽鬆な土壌であり、耕耘に当っては稍反転し難い。透水性は極めて大であり、保水性も中~大であるが気象的には過干の状態に陥り易い。しかし土壌の性質上水分の有効度は高いと思われる。保肥力、固定力は中庸で、石灰飽和は全体的にみると50%を上回っており、自然肥沃度は中位である。養分含量は石灰が比較的多く、従ってPHも高い。しかし苦土、燐酸は中位で加里が少く、養分含量は少い。特殊な障害性はなく、地形も平坦及び緩傾斜地で水蝕は特別な場合を除き問題とならないが、風蝕は受けやすい土壌である。

B 植生及び利用状況

農耕地として利用され、豆類を主に燕麦、小麦、甜菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されているが、一般に収量は低い。

C 地力保全上の問題点

本土壌は粘着性がなく、軽鬆な土壌のため風蝕の害が大きく、従って表土は一般に薄く、また無機膠質物含量が極めて少ないので地味瘠薄となつている。従つてこれの対策としては先づ防風林等の設置による風蝕防止と、有機物の富化によつて保肥力の増大とが問題である。

D 分布

網走郡美幌町字古梅、豊富、報徳、日並、福住の大部分

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

高野中央 - 4 区

元性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	表土の結着性	表土の乾燥性	表土の風乾性	透水性	保水性	自然肥力	固定力	土層の塩基状態	養分含量	置換性石灰土含量	苦土含量	加里含量	有効態リン酸含量	障害性	物理的障害性	化学的障害性	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	耐蝕性	耐風蝕性	耐水蝕性
	t	d	g	p			W		f		n						i			s		e			
簡略分級式	III II I I II 2 1 (2) I 1 1 1 II 2 2 2 III 1 2 2 3 1 1 1 1 II 2 7 B - III 3 2 2																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は高野中央統に属する。本区は緩～急傾斜地のため3区と区分される。表土の厚さは20cm前後であるが傾斜地のため所によつて差がある。有効土層は1m以上で深い。

土性は中粒質で表土に礫を含まないが、軽緩な土壌であり、耕転に当つては稍及転し難い。透水性は極めて大であり、保水性は中～大であるが気象的にみて過干の状態に陥り易い。保肥力の中、固定力は小で、土層の塩基状態は中庸であり、自然肥力度は中位である。養分含量は石灰が多く、苦土、加里は中庸で有効態リン酸含量は少ない。特殊な障害性はないが、緩～急傾斜地のため風蝕及び水蝕を受ける。

B 植生及び利用状況

農耕地として利用され、荳類、燕麦、馬鈴薯等が栽培されているが、一般に管理は粗放であり、生産力は低い。

C 地力保全上の問題点

本土壌区は緩～急傾斜地のため、融雪水や豪雨による侵蝕の害が大きいので、緑作帯及び簡易テラスの設置により、侵蝕の防止に努めなければならない。また、作土が一般に浅くなつていたので可能な範囲に於いて深耕を実施し、その場合有機物を施用して、徐々に表土を増す様心掛けねばならない。

D 分布

網走郡美幌町宇駒生の大部分と宇古梅の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

登 栄 中 央 統

(1) 土壤統概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14～17cmで腐植含量は10～16%、土性はLで礫はない。色は10YRの彩度1、明度1～2で発程程度中～弱の細粒状構造であり、緻密度は4～10で疎である。PH(H₂O)は5.5～6.3の範囲で6前後のものが多い。下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量は10～19%、土性はL～SiLで、礫はない。色は10YRの彩度1～2、明度1～2で、構造は発達程度弱～中の細粒～粒状である。緻密度は18前後で、細小孔隙を含む～富む。PH(H₂O)は5.5～5.8、下層との境界は稍明瞭～漸変と一定の形をとらない。

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量は9～14%、土性はL～SiLで礫はない。色は10YRの彩度3～4、明度2～3で粒状構造が稍発達し、細小孔隙に富み、緻密度も20前後で理溶性は一般に良好である。PH(H₂O)は5.5～5.9。下層へは一般に漸変する。

以下第4層で腐植含量は3%前後もしくは2%以下となり、土性はL～SiLで無構造(massive)であるが、1m以下では粗粒質の所が多い。緻密度は22前後で中である。

代表的断面形態

(所在地)北海道網走郡美幌町宇登栄(試坑No. 36年度の4)

第1層	0～14cm	腐植に頗る富む黒(10YR ^{2/1})のL、発達程度弱の細粒状構造、礫なし、緻密度12で疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り乾、境界は稍明瞭。
第2層	14～29cm	腐植に頗る富む黒(10YR ^{2/1})のSiLで礫はない。細粒状構造で細小孔隙に富む。緻密度18で疎、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界は稍明瞭。
第3層	29～44cm	腐植に富む黒褐(10YR ^{2/3})のSiLで礫はない。粒状構造で細小孔隙に富む。緻密度20で中、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界は漸変。
第4層	44～100cm	腐植を欠く黄褐(10YR ^{5/6})のSiLで礫はない。無構造(massive)で細小孔隙を含む、緻密度20で中、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-14cm	4.8	7.2	43.6	40.4	8.6	L	66.4	2.30	7.13	0.67
2	14-29	7.1	5.9	40.9	46.1	7.2	SiL	77.8	2.54	7.81	0.75
3	29-44	10.1	6.2	40.6	52.6	0.6	SiL	54.8	2.49	5.33	0.76

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1.1	12.3	5.4	5.1	0.69	30.8	14.2	0.5		46.1	1.505
1.0	13.5	5.5	5.1	0.59	36.3	16.7	0.7		46.0	1.769
7	9.2	5.6	5.2	0.44	20.4	13.1	0.7		64.2	2.384

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としては高野中央統がある。高野中央統は腐植含量少なく腐植層厚も薄いことにより本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質、浮石混)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高250~300mの丘陵地及び、標高100~120mの台地上の平坦~緩傾斜地。

C 気候

年間を通じて冷涼。丘陵地帯では本町でも特に融雪期が遅く(10日~15日)、霜害を受けやすい。

年平均雨量835.8mm、年平均気温5.6℃

(網走測候所)

D 植生及び利用状況

畑地として利用され、菜豆、甜菜、燕麦、馬鈴薯などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量は多いが無機膠質物含量が少ないので、地力維持のために一層の有機物増施が必要である。

F 分布 網走郡美幌町宇登栄、古梅、日並、豊富の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
登栄中央-2区	II, p, n, e

(2) 土壌区別説明

登栄中央-2区

元性分級式

土壌生産力可能厚等級	表土の深さ	有効土層の厚さ	耕土の深さ	表土の粘着性	表土の乾着性	土の湿度	透水性	保水性	自然肥力	固定肥力	土層の塩基状態	養分含量	置換性石灰土量	苦土含量	加里含量	有効態燐酸度	酸害性	障害性	物理的障害性	化学的障害性	傾斜の方向	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	侵蝕性	耐蝕性	耐風蝕性	耐水蝕性	耐耐蝕性		
t d g p							W		f		n						i				S				e						
II	I	I	I	II	2	1	(2)	I	I	I	I	1	2	2	II	1	1	2	2	1	I	1	1	I	1	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		II P · n · e																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は登栄中央統に属する。表土の厚さは30~40cmで厚く、有効土層も1m以上で深い。表土に隙はないが軽鬆な土壌の為、耕耘に当つては稍反転し難い。保水性は中~大なので透水性は大きい、過湿過干の虞れは少ない。無機膠質物は少ないが腐植含量が大で保肥力は大きく、又固定力が小で表土の石灰飽和度が50%を上回っており、自然肥沃度は高い。石灰、苦土含量は多いが、加里、有効態燐酸は中程度で養分量は中位である。特殊な障害性はなく、地形も平坦~緩傾斜地で水蝕は余り問題とならないが風蝕は蒙る。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、菜豆、甜菜、燕麦、馬鈴薯等が栽培されているが、特に菜豆の作付面積が多くなっている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区は腐植層が比較的厚く、また、含量も高いが、無機膠質物含量が少ないので生産力

の維持増進には一層の有機物施用が望まれる。

また、現在作土の深さは15cm前後であるが、大型トラクターによる30cm程度の深耕はその効果が大きく、努めてこれを実施すべきである。

D 分布

網走郡美幌町字古梅、日並、豊富の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

登 栄 南 統

(1) 土壤統概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14~20cmで腐植含量は10%前後。土性はL~CLで礫はない。色は10YRの彩度1~3、明度1~3で、発達程度中~弱の細粒状構造である。緻密度は5~8で頗る疎、PH(H₂O)は5.5~6.6で6前後のものが多い。下層との境界は稍明瞭~漸変と一定の形をとらない。

第2層は厚さ15~25cmで腐植含量は6~9%、土性はL~CL(一部LiC)の所もあるが、粒徑組成がCLに近値であり、また、各々の分布が入り乱れて区分に難いので同一統とした)で礫はない。色は10YRの彩度2~3、明度2~4で、発達程度良好な細粒状~粒状であり、第1層より構造は明瞭である。孔隙は細小なものを含む~溜む。緻密度は12~18で疎。PH(H₂O)は5.3~6.9。下層へは概ね漸変する。

第3層は厚さ15~30cmで、腐植含量は5~6%、土性はL~CL(一部LiC)で、礫はない。色は10YRの彩度4~6、明度3~5で、粒状と細塊状の複合構造であり、細小孔隙を含む。一般にこの層より緻密度を増し、20~24で中。PH(H₂O)は5.4~6.0。下層へは漸変の形をとる所が多い。

以下第4層で、腐植を欠き、土性はL~CLで、未風化小円礫を僅かに含む所もある。構造は発達程度中の塊状で、細小孔隙は含む程度。緻密度は22~24で中。

代表的断面形態

(所在地)北海道網走郡美幌町字登栄(試坑No 36年度の2)

第1層	0 ~ 13cm	腐植に富む黒(10YR ² /1)のCLで礫はない。構造は発達程度中の細粒状。緻密度は9で頗る疎。PH(H ₂ O)は5.5、調査時の湿り乾、境界は稍明瞭。
-----	----------	--

第2層	13 ~ 30cm	腐植に富む黒褐(10YR ² /2)のCLで礫はない。発達程度中の細粒状~粒状構造で、細小孔隙を含む。緻密度は18で疎。PH(H ₂ O)は5.3、調査時の湿り半乾、境界漸変
第3層	31 ~ 51cm	腐植を含む褐(10YR ⁴ /6)のCLで礫はない。発達程度弱の粒状と細塊状の複合構造で、細小孔隙を含む。緻密度は20で中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界は漸変。
第4層	51 ~ 100cm	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ /6)で、土性はCLであり、細小円礫を含む。構造は発達程度弱の塊状で、細小孔隙を含む。緻密度は22で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~13	5.1	6.3	57.6	34.7	2.14	CL	62.9	2.28	5.81	0.64
2	13~30	7.4	7.2	59.4	35.5	17.8	CL	87.3	2.71	4.97	0.42
3	30~51	6.0	8.0	52.1	37.0	22.9	CL	101.3	2.57	2.01	0.19

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y1	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石炭 飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
9	10.0	5.5	4.9	1.25	32.7	20.9	1.2		63.9	1.367
12	8.6	5.3	4.6	2.38	33.2	11.5	1.9		34.6	1.620
11	3.5	5.4	4.7	1.23	19.2	8.0	2.0		41.6	1.065

A-2 他の土壤統との関係

本土壌統に類似する統としては、登栄中央統、豊富南統、登栄西統、高野中央統等があるが、登栄中央統、豊富南統は表層多腐植層であり、本統は表層腐植なので腐植層序が異り、登栄西統は礫層を有するが本統にはないので区別され、高野中央統とは母材が同じ非固結水成岩であるが(本統は凝灰質に安山岩質を混じっており、高野中央統は浮石質が主要部分を占めている。)下層土性に差がみられるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質と安山岩質混)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高60m前後の平坦及び緩傾斜地と標高120m~160mの台地上の緩傾斜地、及び標

高300m前後の丘陵地(主に緩傾斜地帯であるが、一部に急傾斜地あり)からなっている。

C 気候

年間を通じて冷涼。降雨量少なく、霜害を受けやすい。

年平均雨量835.8mm、年平均気温 5.6℃

(網走測候所)

D 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、豆類、馬鈴薯、甜菜、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

一般に耕起が浅いので深耕の必要がある。

F 分布

網走郡美幌町字登栄、豊幌、美富、駒生、報徳の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
登 栄 南 - 2 区	II n

② 土壌区別説明

登 栄 南 - 2 区

示 性 分 級 式

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 さ	有 効 土 層 深 さ	耕 転 土 層 厚 さ	表 土 土 層 厚 さ	(表 土 土 層 厚 さ)	(表 土 土 層 厚 さ)	土 層 厚 さ	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 潤 滑 度	(固 定 力)	(土 層 厚 さ)	養 分 含 量	(置 換 性)	(石 灰 含 量)	(苦 土 里 酸 度)	(有 効 態 磷 酸 度)	(酸 害 障 害 性)	(化 学 的 障 害 性)	(物 理 的 障 害 性)	傾 斜 度	自 然 傾 斜 度	(傾 斜 度)	人 為 傾 斜 度	侵 蝕 度	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)			
	t	d	g	p			W		f		n		i	S																
II	I	I	I	I	2	1	I	2	1	I	1	2	1	II	1	1	1	2	1	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1	2
簡略分級式	II n																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は登栄南統に属する。表土は30cm前後で有効土層は1m以上。表土に礫はなく、稍粘着性あるも、農具使用に当つては特に支障はない。透水性中庸で保水力が大きく、一般に地下水位は高い方に属するが過湿の虞れもない。又、保肥力が大で固定力が小さく、有効態磷酸に稍欠けるきらいはあるが、全体として養分含量は多い。特殊な障害性はなく、侵蝕も又殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、豆類、甜菜、馬鈴薯などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本土壌は障害因子が少なく、生産力可能性は高いが、これをより一層發揮させるためには有機物施用を伴う深耕を行つて根系域の拡大を計ることが必要である。また、これを行つた場合に下層土の混入により一時的に生産力が落ちることも考えられるので、これについては施肥量を増すなどの適正な肥培管理が望まれる。

D 分布

網走郡美幌町字美富、駒生、報徳の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

美 富 西 統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

本統は無機土壌に主としてヨシ、ハンノキ等の遺体集積物を混入した低位亜泥炭土である。

第1層は厚さ15~26cmで腐植含量は15~25%前後、土性はL(一部にSLの所もある)であるが、分解良好な植物遺体を含む。色は10YRの彩度1~3、明度1~3で、構造は発達程度弱の細粒状である。緻密度は6~13で頗る疎~疎。PH(H₂O)は4.8~7.0であるが一般に5.5前後の所が多い。なお1~2層間に5cm前後の旭、雌阿寒系の火山灰が認められる所もある。下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量は8~53%と所により差が大きい。土性はL~SiCで深はない。色は10YRの彩度1~3、明度2~4で稍分解良好な植物遺体を含む~富む程度に混在する。構造は一般に不明瞭で管状の酸化沈積物がある所もある。緻密度は15前後で疎、PH(H₂O)は4.5~5.2前後、下層との境界は稍明瞭である。

以下第3層腐植含量は25~34%前後、土性はL~SiCで、礫はない。色は10YRの彩度1、明度4~6で分解良好な植物遺体に富む~頗る富む、構造は一般に不明瞭。PH(H₂O)

は5.0前後。

尚、本土壤統は地点により断面の乱れがみられる。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字美富(試坑No. 36年度の68)

第1層	0 ~ 20 cm	腐植に傾る富む黒(10YR 1/1)のLで、酸はない。分解良好な植物遺体を含み、構造は発達程度弱の細粒状である。緻密度は1.3で疎、PH(H ₂ O)は5.6、調査時の湿り半乾、境界は稍明瞭。
第2層	20 ~ 40 cm	腐植に傾る富む暗褐(10YR 3/3)のLで、酸はない。分解稍良好な植物遺体を含み、構造は不明瞭。緻密度は1.5で疎、PH(H ₂ O)は5.2、調査時の湿り湿、境界は稍明瞭。
第3層	40 ~ 100 cm	植物遺体に富む腐植土(10YR 4/1)、酸はない。構造は不明瞭で、細小孔隙はあり程度。緻密度は1.8で疎、PH(H ₂ O)は5.0、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~20	4.3	16.0	47.0	24.7	12.3	L	60.7	2.34	8.82	0.77
2	20~40	10.9	11.1	43.5	31.3	15.7	L	54.5	2.39	5.79	0.66
3	40~100	7.9	11.0	51.4	26.5	11.0	L	31.1	2.37	15.62	0.88

炭素率	腐 植 %	PH		置換容量 Y1 me/100g	置換容量 me/100g	置換性塩基 ^{me} 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1.1	14.2	5.6	5.4	0.87	28.4	17.0	1.6		5.28	1.052
9	10.0	5.2	4.8	1.69	23.1	14.8	0.6		64.1	1.116
1.8	26.9	5.0	4.5	2.05	59.7	7.1	1.1		11.9	1.207

A-2 他の土壌統との関係

本土壤統に隣接又は類似する統としては、豊幌南統、高野中央統、野崎南統、瑞治統等があるが、豊幌南統、高野中央統とは母材が異なり、野崎南統は隠層を有するため本統と区別され、また、本統は亜泥炭土であるが、瑞治統は泥炭土であり本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩及びヨシ、ハンノキ

A-4 堆積様式 集積/洪積世堆積

B 地 形

標高50~80m前後の河岸段丘よりなる平坦地

C 気 候

年間を通じて冷涼。降雨量少なく、霜害を受けやすい。

年平均雨量835.8mm、年平均気温5.6℃(網走測候所)

D 植生及び利用状況

大部分が畑地で、麦類、苧類、甜菜等が栽培されているが、附帯地にはヨシ、ヤチダモ等が繁茂している。

E 農業上の留意事項

過湿地のため、排水が必要である。

F 分 布

網走郡美幌町字美富、福住、駒生の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
美 富 西 - 2 区	IIIWII f · n
美 富 西 - 3 区	IIIWII t · n

② 土壤区別説明

美 富 西 - 2 区

示 性 分 級 式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表土の結着性)	(表土の乾燥性)	土壌の水分	透水性	保水性	自然肥力	固肥力	養分含量	(置換性石灰)	(苦土)	(加里)	(有効態燐酸)	障害性	(物理的障害性)	(化学的障害性)	傾斜	(人為的傾斜)	侵蝕	(耐水性)	(耐風性)									
t	d	g	p		W		f		n							i		s			e											
III	I	I	I	I	2	1	1	III	1	1	3	II	1	2	3	II	2	2	2	2	2	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1	2
簡略分級式		III W II f n																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は美富西統に属する。表土の厚さは20~40cmで、有効土層は1m以上。表土に礫はなく、土性は中粒質で分解良好な植物遺体を含むが、農具の使用には支障を来さない。また、植物遺体を含むため、透水性、保水性は共に大なる土壤であるが、地下水位が高く、年間を通じて過湿であり、これが本土壤の阻害要因となっている。保肥力は大で、固定力は小さいが、特に下層のPHが低い。養分含量は石灰、苦土、加里、有効態燐酸のいずれも中程度含む。特殊な障害性はなく、侵蝕も殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

大部分が畑地として利用されているが、一部に草地化されている所もある。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は地下水位が高く、排水が不良なために土地生産力が低い現状であり、これが大きな阻害要因となっている。従つてこれの除去には排水施設の完備が必要である。また、排水が良好となつた場合、当然深耕が考えられるが、これについては心土に石灰を施用する方を講じた心土耕を先に行い、下層の酸性を矯正した後に深耕するとその効果は大きい。

D 分布

網走部美幌町宇福住、駒生の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

美 富 西 - 3 区

示 性 分 級 式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表土の結着性)	(表土の乾燥性)	土壌の水分	透水性	保水性	自然肥力	固肥力	養分含量	(置換性石灰)	(苦土)	(加里)	(有効態燐酸)	障害性	(物理的障害性)	(化学的障害性)	傾斜	(人為的傾斜)	侵蝕	(耐水性)	(耐風性)									
t	d	g	p		W		f		n							i		s			e											
III	II	I	I	I	1	1	(2)	III	1	2	3	I	1	2	1	II	1	2	2	2	1	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1	2
簡略分級式		III W II t · n																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は美富西統に属する。本区は山間の湿地帯であるが2区は美幌川流域に当り、成因が多少異なるので区分した。表土の厚さは20cm前後で、有効土層は1m以上。表土に礫はなく、土性は中粒質(一部に粗粒質の所もある)で分解良好な植物遺体を含むが、農具の使用には支障を来さない。透水性、保水性は共に大なる土壤であるが地下水位が高い為に年間を通じて過湿気味であり排水状態は良くない。保肥力は大で、固定力は小さく、土層の塩基状態も良いので、自然肥力度は高い土壤である。養分含量は石灰が多く、苦土、加里、有効態燐酸は共に中程度である。特殊な障害性はなく、侵蝕も殆んど認められない。

尚、次層(層厚5~7cm)に腐植を含む程度のSLの層がある所もあるが、土壤の生産力には余り影響ないものと思われる。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、麦類、豆類、甜菜、牧草等が作付されているが、一部にヤチダモの林をなしている所もある。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は山間の湿地帯に属する所であり、排水が不良である。従つて排水施設を完備することにより、生産力の向上が期待できる。

D 分布

網走部美幌町宇福住の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

野 崎 南 統

(1) 土壌概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で、腐植含量は7~9%。土性はCLで、未風化小中円礫を含む(但し一部の地点では本層に出現しない所もある)。色は10YRの彩度1~2、明度1~3で細粒状構造を呈し、発達程度は中。緻密度は6~8で頗る疎、PH(H₂O)は5.4~6.1。下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ10~18cmで腐植含量は3~5%。土性はCLで、未風化小中円礫を含む。色は10YRの彩度1~2、明度4で、構造は場所により平板状を呈する所もあるが概して塊状~細塊状であり、一般に斑鉄を含む~富むて、所により結核も認められる。細小孔隙はあり程度。緻密度は14~23で疎~中。PH(H₂O)は5.5前後、下層との境界は稍明瞭である。

以下第3層で、腐植含量は1%以下。未風化の細~中円礫よりなる礫層で、礫層中の土壌の土性は概して中粒質(CL)であるが、一部砂礫層となつている所もある。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町宇美富(試坑No. 36年度の73)

第1層	0~17cm	腐植に富む黒褐色(10YR 5/2)のCLで未風化小~中円礫を含み、構造は発達程度中の細粒状である。緻密度は6で頗る疎。PH(H ₂ O)は5.4、調査時の湿り半乾、境界は明瞭。
第2層	17~35cm	腐植を含む黄褐色(10YR 4/1)のCLで、未風化小~中円礫を含む。構造は稍明瞭な平板状で、斑点状の酸化沈積物を含み、細小孔隙はあり程度。緻密度は18で疎、PH(H ₂ O)は5.4、調査時の湿り湿、境界は稍明瞭。
第3層	35~100cm	未風化細~中円礫よりなる礫層であるが、礫層中の土壌は腐植を欠く黄褐色(10YR 6/1)のCLである。構造は不明瞭。PH(H ₂ O)は5.5、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-17	4.3	3.8	44.4	32.7	19.2	CL	72.3	2.24	4.80	0.56
2	17-35	4.5	4.0	35.1	37.1	23.9	CL	93.2	2.43	1.53	0.17
3	35-100	3.7	17.1	38.6	27.3	17.0	CL	-	-	0.57	0.11

炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Yl	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
9	8.3	5.4	5.0	0.87	30.9	12.9	1.8		41.7	813
9	2.6	5.4	4.6	0.69	17.6	8.1	1.7		46.0	524
5	0.7	5.5	4.6	0.44	15.1	8.4	2.9		55.6	545

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統の隣接又は類似する統としては、美富西統、美富中央統、高野中央統等があるが、美富西統は全層多腐植層であるが本統は表層腐植層で礫層があるため腐植層序及び礫層の有無により区別され、美富中央統とは類似点が多いがやはり礫層の有無により区別される。また、高野中央統とは礫層の有無と本統に酸化沈積物があること及び、本統の下層の彩度が著しく低いので、区別される。

A-3 母 村 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

標高40m前後の河岸平坦地及び、標高60mの河岸段丘(緩傾斜地)からなっている。

C 気 候

年間を通じて冷涼。降雨量少なく、霜害を受けやすい。

年平均雨量835.8mm、年平均気温5.6℃(網走測候所)

D 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、苜蓿、甜菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿地のため排水が必要である。

F 分 布

網走郡美幌町宇美富、豊幌、野崎の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
野 崎 南 - 野 崎 南	IIIW-nII t · d · c · f

② 土壤区別説明

野崎南一野崎南

示性分級式

土壤生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕土の難易	(表土の粘着性)	(表土の乾湿)	(透水性)	(保水性)	(自然肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	(置換性)	(苦土)	(加里)	(有効態燐酸)	(酸害)	(物理的障害性)	(化学的障害性)	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵入)	(耐蝕性)	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)								
t	d	g	p		W		f		n					i				s					e								
III	II	II	I	2	1	1	III	2	1	3	II	1	2	2	III	2	1	2	3	1	I	1	1	I	1	-	-	I	-	-	-
簡略分級式 III W・n II t・d・g・f																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は野崎南統に属する。表土の厚さは17cm内外で薄く、有効土層も40cm前後より際層となるが、際層中にはCLが混在し植物根が貫入し得ないものではない。農具使用当つては土質的には使い良いが、表土に小～中円礫を含むため、礫が作業を妨げる所が多い。透水性は中庸であるが保水性が大であり、また、地下水位が高いため土壌は常に過湿の状態で、本土壤区の大なる阻害要因となつている。保肥力は大で、固定力は小さいが、土層の塩基状態が中、自然肥沃度は中位である。養分含量は石灰、加里が中、苦土が多いが有効態燐酸が少ない。特殊な障害性はなく、侵蝕も殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

一部は水田となつているが、大部分は畑地として利用され、麦類、豆類、甜菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は地下水位が高く、排水不良なことが大きな阻害要因となつている。従つて排水設備を完備することが必要であり、また、作土の礫が作業に支障を来たしているため除礫も必要である。施肥に当つては有効態燐酸に欠乏している現状なので、特に多く施す必要はないが、(固定力小)標準量を下回らぬ様注意する必要がある。また、排水後は心土耕により土壌の軟化を計ることが大切である。

D 分布 網走郡美幌町字美富、野崎の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

登 幌 南 統

(1) 土壤統概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16～20cm前後で腐植含量は10～15%、土性はLで礫はない。色は10 YRの彩度1～2、明度1～2で、概ね発達程度弱の細粒状構造である。緻密度は4～10で頗る疎。PH(H₂O)は5.5～6.5、下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ20～25cmで、腐植含量は9～13%前後。土性はCLで礫はない。色は10 YRの彩度1～3、明度1～2で粒状構造が良く発達し、第1層との差は明瞭である。細小孔隙は含む～含む、中孔はあり程度。緻密度は14～23で疎～中。一般に理化学性は良好である。PH(H₂O)5.5前後、下層へは漸変する。

第3層は厚さ20cm前後で腐植含量は3%前後、土性はCL～LiCで礫はない。色は10 YRの彩度3～4、明度3～4で、構造は粒状と細塊状の複合である。細小孔隙は含む程度。緻密度は20～24で中。PH(H₂O)は5.5前後、下層へは漸変する。

以下第4層で腐植を欠き、土性はCL～LiCで未風化細小円礫があり程度の所もある。色は10 YRの彩度5～6、明度4～6で、一般に不明瞭な塊状構造であり、細小孔隙はあり～含む程度。緻密度は24～26で密である。

中～

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字登榮(試坑No. 36年度の5)

第1層	0～21cm	腐植に頗る含む黒(10 YR 2/1)のL、発達程度弱の細粒状構造、礫なし。緻密度9で頗る疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り乾、境界は稍明瞭。
第2層	21～41cm	腐植に含む黒褐(10 YR 2/3)のCL、礫はない。細粒～粒状構造で、細小孔隙を含む。緻密度18で疎、PH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界は稍明瞭。
第3層	41～58cm	腐植を含む灰黄褐(10 YR 4/3)のLiCで礫はない。細粒～粒状構造で細小孔隙を含む。緻密度22で中、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界は漸変。
第4層	58～100cm	腐植を欠く灰黄橙(10 YR 6/3)、土性LiCで細小未～半風化円礫があり～含む程度。細小孔隙はいつでもあり程度、緻密度24で密、調査時の湿り半乾。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は腐植層が比較的厚く、また腐植含量も高いが、傾斜地のため融雪水等により、従つて地力維持の為には有機物の施用を怠つてはならない。また、一層地力を強しめるためには深耕(30cm程度)の効果が大きく、特に甜菜などは高収量が期待できる肥に当つて特に土質的に留意すべき問題はみあたらないが、磷酸質肥料については過石との併用を励行すべきであり、またPHが一般に稍低いので(置換酸度は小であるが)酸性の作物の栽培に当つては石灰を施用すべきである。

D 分布

網走郡美幌町宇登栄、豊幌、駒生の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

豊 幌 南 - 2

示 性 分 級 式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の難易	耕転の量	(表土の結着性)	(表土の風乾性)	土壌の乾燥性	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥力	(固定力)	(土層の塩基状態)	(置換性)	(有機態)	(酸度)	(化学的障害性)	(物理的障害性)	傾斜の方向	(人為的)	(侵蝕)	(甜菜)							
t	d	g	p			w			f		n					i			s			o							
III	I	I	I	I	2	1	1	I	1	1	I	1	2	1	III	1	1	2	3	1	I	1	I	1	-	-	I	1	1
簡略分級式		III n																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊幌南統に属する。表土の厚さは30cm以上で厚く、有効土層も1m以上あり、表土に硬はなく、農具の使用に支障はない。また、作土下の構造が発達しているため、保水は大であり、反面保水性も大きく、特殊な場合を除き過湿過干の危れは少ない。保肥力、固定力は小さく、土層の塩基状態も良いので自然肥力度は高い。養分含量は石灰、多量だが、加里は中庸で、有効態磷酸が少なく、養分のバランスを欠いている。特殊な障害なく、地形は平坦で侵蝕は殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、苜蓿、馬鈴薯、甜菜などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本土壤区では深耕の効果が大きく、(有機物の施用を伴う)根菜類などは一層の増収が期待できるが、その他地力保全上特に問題となる事項はなく、適正な肥培管理が望まれるが、ただ磷酸は多施することに心掛けるべきであろう。

D 分布

網走郡美幌町宇登栄、報徳の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

豊 幌 中 央 統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~18cm前後で腐植含量は7%前後、土性はLで一部未風化小円礫がある所もある。色は10YRの彩度2、明度2で発達程度弱の細粒状構造を呈し、微密度は6~10で頗る疎。PH(H₂O)は5.6~6.0、下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ30cm前後で腐植含量は2~5%、土性はLで未風化小~中円礫を含む。色は10YRの彩度3~6、明度3~5と位置により稍差がある。構造は概ね無構造(massive)で一部粒状化の過程にあるが、発達程度は弱いものが多い。微密度は14~24で疎~中であるが、一般には中位なものが多い。PH(H₂O)6前後、下層との境界漸変。

第3層は厚さ15~20cmで腐植を欠き、土性はLで、未風化~半風化の小中円礫を含む~含む。色は10YRの彩度4~6、明度3~5で、構造は無構造(massive)である。微密度は19~24で中、PH(H₂O)は5.8前後。

以下第4層で未風化礫に頗る含むか、または礫土となっている。(この層厚は大体50~80cm前後)

代表的断面形態

(所在地)北海道網走郡美幌町宇登栄(試坑No. 36年度の33)

第1層	0~15cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のL、礫はない。発達程度弱の細粒状構造で、微密度は8で頗る疎。PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り乾、境界は明瞭
第2層	15~45cm	腐植を含む褐(10YR 4/6)のL、未風化小中円礫を含む。構造は無構造(massive)で粒状化の過程にある。微密度は18で疎。PH(H ₂ O)は6.0、調査時の湿り半乾境界は漸変。

ては腐植を増加する必要がある。

D 分布

網走郡美幌町宇豊幌、古梅の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

栄 森 統

(1) 土壌概説

A 土壌の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~21cmで腐植含量は10%前後、土性はLiCで隠はない。色は10YRの彩度1~2、明度1~3で、構造は発達程度弱~中の細粒状である。緻密度は8~12で頗る疎~疎。PH(H₂O)は5.2~6.1で5.5前後のものが多い。下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ10~25cmと幅があり、腐植含量は5%前後で土性はHCである。構造は発達程度中の粒状~細塊状で隠はないが所によつては酸化沈積物がある所もある。色は10YRの彩度3~5、明度3~4である。緻密度は14~19で疎~中。PH(H₂O)は5.3~5.9。下層へは概ね漸変する。

第3層は厚さ12~19cmで腐植含量は2~4%、土性はHCで、隠はない。色は10YRの彩度2~4、明度4~5で、構造は発達程度弱~中の細粒状~塊状で、細小孔隙を含み、斑点状の酸化沈積物を含む~含む。緻密度は16~21で疎~中、PH(H₂O)は5.5前後、下層へは漸変する。

以下第4層で腐植含量は2%以下、土性はLiCで未風化細小孔隙があり程度の所もある。色は10YRの彩度2~4、明度4~7で、構造は発達程度弱~中の細粒状~塊状であり、斑点状の酸化沈積物を含む~含む。孔隙は細小なものがあり程度。緻密度は16~22で疎~中であるが中位のものが多い。PH(H₂O)は5.7~6.0。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町宇豊(試坑No. 16)

第1層	0~16cm	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のLiCで隠はない。発達程度弱~中の細粒状構造。緻密度9で頗る疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。境界は明瞭。
第2層	16~32cm	腐植を含む褐(10YR4/4)のHC、隠なし。発達程度中の細塊状と粒状の複合構造で細小孔隙を含む。緻密度14で疎。

第3層	32~44cm	PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿。境界は漸変。腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のHC、隠なし。発達程度弱~中の細塊状で細小孔隙を含む。緻密度14で疎。PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿。境界は漸変。
第4層	44~100cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/3)のLiCで隠はない。発達程度弱の細塊状~塊状で、細小孔隙を含む。斑点状の酸化沈積物を含む。緻密度16で疎。PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~16	4.3	4.1	36.3	33.6	26.0	LiC	81.3	2.50	5.43	0.49
2	16~32	6.1	0.2	20.2	35.8	45.8	HC	99.4	2.75	2.54	0.50
3	32~44	6.1	1.4	23.5	29.5	45.6	HC	100.3	2.75	2.10	0.22
4	44~	4.1	9.1	27.6	24.7	38.6	LiC			0.95	0.17

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 me /100g	置換容量 me /100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	燐酸吸 収係数
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O		
11	9.4	5.9	5.2	0.48	35.9	25.7	3.1	0.7	71.7	813
9	4.4	5.9	5.2	0.48	38.2	26.0	7.6	0.6	79.1	1,295
9	3.6	6.0	5.1	0.48	35.7	24.6	7.9	0.5	80.1	1,350
6	1.7	6.0	5.0	0.60	31.1	21.2	6.5	0.9	79.4	1,643

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接又は類似する統としては、美和西統、美和東統、野崎南統等などがあるが、美和西統には隠層があるので区別され、また、美和東統には酸化沈積物がなく、疎を混在する砂層があるために区別される。また、野崎南統は洪積世堆積なので堆積様式が異なり、本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形

美幌川支流に沿つて山合いを西南に延び、標高も80~120mと漸次増す平坦~緩傾斜の山間地。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字美和(試坑No. 4)

第1層	0~18cm	腐植を含む黒褐(10YR ² / ₃)のCLで未風化細小孔隙を含む。構造は発達程度弱の細粒状である。緻密度は8で頗る疎。PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿。境界は明瞭。
第2層	18~47cm	腐植を欠く褐(10YR ⁴ / ₆)のSCLで、疎はなし。構造は無構造(massive)で細小孔隙を含む~富む。緻密度は16で疎、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り湿、境界は漸次。
第3層	47~85cm	腐植を欠く褐(10YR ⁴ / ₆)のSLで、疎はなし。構造は無構造(massive)で細小孔隙を含む~富む。緻密度10で頗る疎。PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り湿。境界は明瞭。
第4層	85~100cm	腐植を欠く砂層。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重 g	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~18	3.5	2.6	51.4	28.9	17.1	CL	-	-	2.44	0.26
2	18~47	3.3	0.6	62.1	19.7	17.5	SCL	99.1	2.67	0.75	0.11
3	47~85	3.2	6.3	69.1	13.5	11.1	SL	87.3	2.70	0.65	0.09

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y1	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
9	4.2	5.9	5.0	0.60	22.3	17.3	2.6	1.5	77.3	668
7	1.2	6.3	5.0	0.60	19.8					782
7	1.1	6.2	5.1	0.72	18.1					995

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接又は類似する統としては榮森統、美和西統、野崎南統等があるが、榮森統とは表土の土性(本統は中粒質であるが、榮森統は細粒質)及び酸化沈積物、礫層の有無(榮森統には酸化沈積物があり、礫層はない。)により区別され、美和西統とは表土の土性が異なること(美西は細粒質)及び酸化沈積物の有無(本統はない)、野崎南統とは酸化沈積物の有無(本統はない)によりそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形

網走川川岸の低標高平坦地

C 気候

年間を通じて冷涼。降雨量少なく、霜害を受けやすい。
年平均雨量835.8mm、年平均気温5.6℃(網走測候所)

D 植生及び利用状況

一部水田となつている所もあるが、大部分畑地として利用され、馬鈴薯、麦類、苧類、甜菜などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

一般に腐植含量が低いので、有機物の施用が必要である。

F 分布

網走郡美幌町字美和の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
美和東 - 美和東	II t · g · w

② 土壌区別説明

美和東 - 美和東

示性分級式

土表有効土層の厚さ	表土の深さ	耕転の難易	表土の粘性	表土の結着性	表土の乾湿性	土の透水性	土の保水性	自然潤肥力	保肥力	土層の塩基状態	養分豊富	置換性石灰量	苦土量	加酸度	有効態リン	酸化障害性	物理的障害性	化学的障害性	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性	
t	d	g	p		w		f		n		i		s		e										
II	II	I	I	2	1	1	II	1	2	2	I	1	1	1	I	1	1	1	I	1	1	I	1	2	1

簡略分級式 II t · g · w

A 土壌区の特徴

この土壌区は美和東統に属する。表土の厚さは20cm内外で、有効土層は1m以上。土性は中粒質で、未風化細小円礫を含むが、農具の使用に当つては特に支障を来さない。透水性は大で、保水性は中庸であるが、地形的に一時的過湿の虞れがある。保肥力は大きく、また、固定力は極小で、土層の塩基状態も良く、自然肥沃度は高い。養分含量は石灰、苦土、加里、有効態燐酸、共に多く、肥沃な土壌と云える。特殊な障害性はなく、地形も平坦で、侵蝕は殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

一部水田となつている所もあるが大部分畑地として利用され、馬鈴薯、麦類、苜蓿、甜菜などが栽培されているが、一般に収量は高い。

C 地力保全上の問題点

地力保全上特に問題となるものはないが、一般に土壌の腐植含量が低いので有機物を施用し、恒久的な地力維持を計ることと、融雪期及び集中雨時等には一時的であるが過湿状態になるので、これに備えて排水施設などを完備しておくことも必要である。

D 分布

網走郡美幌町字美和の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年5月31日

美 和 西 統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で、腐植含量は7%前後。土性はLiCで礫はない。色は10YRの彩度1、明度1で、発達程度中の細粒状構造である。緻密度は9~12で頗る疎~疎。PH(H₂O)は5.5~6.1、下層との境界は稍明瞭である。

第2層は厚さ12~20cmで、腐植含量は3%前後。土性はLiCで半風化の細小円礫を含む。色は10YRの彩度1~3、明度2~3で、構造は発達程度中の粒状と細塊状の複合であり、細小孔隙を含む。緻密度は16~18で疎、PH(H₂O)は5.3前後、下層との境界は稍明瞭~漸変と一定の形をとらない。

第3層は厚さ11~13cm前後で、腐植含量は2%以下。土性はCLで半風化の細小円礫を含む。色は10YRの彩度4、明度3~4で、発達程度中の細塊状構造であり、細小孔隙を含み、中孔隙もある。緻密度は18で疎、PH(H₂O)は5.4前後、下層との境界は稍明瞭である。

第4層は厚さ13cm前後で腐植含量は5%前後。土性はLで未風化細小円礫を含む。色は10YRの彩度1~3、明度2~3で、構造は発達程度中の塊状であり、細小孔隙を含む。緻密度は18~21で疎~中。PH(H₂O)は5.4前後、下層へは漸変する。

以下第5層で、腐植含量は1%以下、土性はLiCで未風化細小円礫を含む~富む。色は10YRの彩度2~4、明度4~5で、構造は発達程度中の塊状であり、細小孔隙を含み、斑点状の酸化沈積物を含む~富む。緻密度は16~22で疎~中。PH(H₂O)5.7前後。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字美和(試坑No5)

第1層	0~21cm	腐植に富む黒(10YR 1/1)のLiCで礫なし。構造は発達程度中の細粒状。緻密度は9で頗る疎。PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界は明瞭
第2層	21~41cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/3)のLiCで半風化細小円礫を含む。構造は発達程度中の粒状と細塊状の複合で、細小孔隙を含む。緻密度は16で疎。PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、境界は稍明瞭。
第3層	41~52cm	腐植を欠く褐(10YR 4/4)のCLで半風化細小円礫を含む。構造は発達程度中の細塊状で、細小孔隙があり~含む程度。緻密度は18で疎。PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿。境界は明瞭。
第4層	52~65cm	腐植に富む黒(10YR 2/1)のLで未風化細小円礫を含む。構造は発達程度中の塊状で、細小孔隙を含む。緻密度21で中。PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿。境界は漸変。
第5層	65~100cm	腐植を欠く褐灰(10YR 4/2)のLiCで未風化細小円礫を含む。構造は発達程度中の塊状で、斑点状の酸化沈積物を含む。細小孔隙を含み、中孔隙がある。緻密度22で中。PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~21	4.3	5.3	34.8	52.5	27.4	LiC	75.7	2.57	4.18	0.40
2	21~41	3.8	5.9	36.7	19.7	38.7	LiC	83.9	2.70	1.69	0.20
3	41~52	3.6	16.3	38.7	22.0	23.0	CL	100.2	2.72	0.99	0.12
4	52~65	5.3	14.4	43.7	33.0	8.7	L	-	-	2.87	0.22
5	65~	4.5	5.4	42.4	21.3	30.5	LiC	-	-	0.29	0.09

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量は10%前後、土性はLで隙はない。色は10YRの彩度1、明度1で発達程度中の細粒状構造である。緻密度は9~13で頗る疎~疎。PH (H₂O) 5.4~6.2、下層との境界は稍明瞭~漸変と一定の形をとらない。

第2層は厚さ15~17cmで腐植含量は11%前後、土性はLで隙はない。色は10YRの彩度2~3、明度2~3で発達程度大の細粒状構造で細小孔隙を含む~蓄む。緻密度は13~16で疎、PH (H₂O) は5.9前後、下層との境界は稍明瞭である。

第3層は厚さ10~12cmで腐植含量は10%前後、土性はSLで隙はない。色は10YRの彩度2~3、明度2~3で構造は概ね無構造(massiv)である。緻密度は15~18で疎PH (H₂O) 6.0前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ20~30cmで腐植含量は4%前後、土性はSLで隙はない。色は10YRの彩度6、明度4~6で無構造(massive)である。緻密度は14~20で疎~中、PH (H₂O) 6.4前後、下層との境界は明瞭である。尚、以上の4層が水積の部分に当る。

第5層は厚さ10~15cmで腐植含量は10~12%、土性はLで隙はない。色は10YRの彩度2~3、明度2~3で、発達程度弱の細粒状もしくは無構造(massive)である。緻密度は18~21で疎~中。PH (H₂O) は6.0前後。下層との境界は明瞭~漸変と所により差がある。

以下第6層で腐植を含む~欠き、土性はLで隙はない。色は10YRの彩度6、明度4~6で無構造(massive)である。緻密度は17~22で疎~中、PH (H₂O) は6.3前後

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町宇古橋(試坑No.20)

第1層	0~20cm	腐植に頗る蓄む黒(10YR 1/1)のLで隙はない。構造は発達程度弱の細粒状。緻密度は9で頗る疎。PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界は稍明瞭。
第2層	20~35cm	腐植に頗る蓄む黒褐(10YR 2/2)のLで隙はない。構造は発達程度大の細粒状で細小孔隙を含む。緻密度は16で疎、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界は漸変。
第3層	35~47cm	腐植に頗る蓄む黒褐(10YR 2/2)のSLで隙はない。構造は発達程度大の細粒状で細小孔隙を含む。緻密度は18で疎、PH (H ₂ O) 6.1、調査時の湿り湿、境界は稍明瞭。
第4層	47~75cm	腐植を含む褐(10YR 4/6)のSLで隙はない。無構造(massive)で細小孔隙を含む。緻密度はH ₂ (20)で中、PH (H ₂ O) 6.4、調査時の湿り湿、境界明瞭。本層までが水積の部分である。
第5層	75~90cm	腐植に頗る蓄む黒褐(10YR 2/2)のLで隙はない。発達程

		度弱の細粒状構造で細小孔隙を含む。緻密度は21で中、PH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り湿、境界は明瞭。
第6層	90~	腐植を含む褐(10YR 4/6)のLで隙はない。無構造(massive)で細小孔隙を含む。緻密度は22で中、PH (H ₂ O) 6.3、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~20	4.4	17.2	44.0	33.5	5.3	L	60.8	2.46	6.03	0.48
2	20~35	6.6	14.3	44.2	33.3	8.3	L	68.8	2.51	6.31	0.47
3	35~47	6.6	24.0	44.3	29.8	1.8	SL	54.6	2.48	5.83	0.47
4	47~75	4.5	27.1	51.4	19.4	2.1	SL	-	-	2.27	0.19
5	75~90	8.7	9.2	41.7	42.9	6.1	L	-	-	7.18	0.54
6	90	7.4	12.2	46.2	38.9	2.7	L	-	-	1.95	0.17

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Yi	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O		
13	10.0	5.9	4.8	1.08	21.1	11.3	1.3	0.3	53.4	1.216
13	10.9	5.9	4.9	0.96	22.8	13.1	1.7	0.3	57.4	1.456
13	10.1	6.1	5.1	0.60	25.0	13.7	1.7	0.4	54.4	2.000
12	3.9	6.4	5.4	0.60	10.0	4.1	1.7	0.4	40.6	1.379
14	12.4	6.0	5.2	0.60	32.0	16.1	2.9	0.4	50.2	2.431
11	3.3	6.3	5.3	0.72	12.6	5.0	1.9	0.4	39.3	1.872

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接又は類似する統としては高野中央統登榮中央統等があるが、高野中央統とは腐植層序(本統は表層多腐植層であるが高野中央統は表層腐植層)及び埋没層(本統にあり)の有無より区別され、登榮中央統とは腐植層序は同じであるが埋没層(本統にあり)の有無により本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積/洪積世堆積

B 地形

標高120~140mの山裾に連なる平坦~緩傾斜地

C 気候

年間を通して冷涼、降雨量少く、霜害を受けやすい。
年平均雨量 835.8mm、年平均気温 5.6℃（網走測候所）

D 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、苧類、甜菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

無機質物含量が少ないので一層の有機物増施が必要である。

F 分布

網走郡美幌町字古梅の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義（北海道立農業試験場）

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
古梅南 - 古梅南	III n · II p · e

② 土壌区別説明

古梅南 - 古梅南

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	耕転の粘性	表土の乾湿性	透水性	保水性	自然肥力	固肥力	土層の塩基状態	置換性	苦土含量	加酸度	腐植酸含量	酸害の障害性	化学的的障害性	傾斜の傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性										
t	d	g	p		w		f		n		i		s		e																	
III	I	I	I	II	2	1	(2)	I	1	1	1	I	1	2	1	III	1	2	3	2	1	I	1	1	I	1	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		III n II p · e																														

A 土壌区の特徴

この土壌区は古梅南統に属する。表土は30cm以上で深く、有効土層も1m以上。土性は中粒質で表土に礫を含まないが硬質な土壌のため耕転に当つては稍反転し難い。肥力は中

固定力は小さく、土層の塩基状態も良好で自然肥沃度は高い。養分含量は石灰が多いが、苦土有効態磷酸中、加里少で全体として少ない。特殊な障害性はなく、地形は平坦～緩傾斜地で水蝕は余り問題とならないが風蝕は僅かながら受ける。

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、麦類、苧類、甜菜、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区は腐植層が厚く、また含量も高いが、無機質物含量が少ないので生産力の維持増進には一層の有機物施用が必要であり、また、30cm程度の深耕はその効果が大きいので努めてこれを実施すべきである。

D 分布

網走郡美幌町字古梅の一部

記載責任者 八木沼 純 義（北海道立農業試験場）

昭和38年3月31日

古梅西統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm前後で腐植含量は6%前後、土性はSLで礫はない。色は10YRの彩度1～2、明度1～2で発達程度中の細粒状構造である。緻密度は1.3で疎、PH(H₂O)は6.0前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ13cm前後で腐植含量は2%前後、色は10YRの彩度3～4、明度2～4、土性はSLで未風化の細～中円礫を含む。構造は単粒状で外孔隙に富んでいる。緻密度は1.3～1.5で疎、PH(H₂O)は6.0前後、下層との境界は明瞭である。

以下第3層で腐植を欠き、土性はSで未風化細～中円礫を含む。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字古梅(試坑No.34)

第1層	0～17cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のSLで礫はない。緻密度は1.3で疎。PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り乾、境界は明瞭。
第2層	17～30cm	腐植を含む褐(10YR 4/4)のSLで、未風化細～中円礫を含む。緻密度はH ₂ (1.5)で疎、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界は明瞭。
第3層	30～	腐植を欠く灰黄褐(10YR 4/3)のSで未風化細～中円礫を含

C 地力保全上の問題点

無機質物含量が少ないので客土により土壌理化学改良の必要があり、それと併せて有機物の増施も必要である。

D 分布

網走郡美幌町字古梅の一部

記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

古 梅 中 央 統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量は8~10%前後、土性はL~CLで際はない。色は10YRの彩度2、明度2で、構造は発達程度弱の細粒状である。緻密度は6~17で疎~疎、PH(H₂O)は5.1~6.5であるが、一般に5.5前後の所が多い。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ15~30cmと所により稍幅があり、腐植含量は2~8%と幅あるも5%前後のものが多い。土性はL~SiCで際はない。色は10YRの彩度3~4、明度2~4で、構造は発達程度弱の細塊状もしくは無構造であり、細小孔隙が「あり」程度である。緻密度は18~24で疎~中、PH(H₂O)は5.4~5.6、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ13~20cmで、腐植含量は概ね2%以下であるが所に依つては8%前後のものもある。土性はL~SiCで際はない。色は10YRの彩度1~3、明度4~6で無構造のものが多く、孔隙は細小なものが「あり」程度である。緻密度は23~29で中~密。PH(H₂O)は5.4~5.9、下層との境界は明瞭である。

以下第4層で腐植含量は2%以下、土性はSiCL~SiCで、未風化の円礫がある所もある。色は10YRの彩度1~2、明度4~6で、無構造であり、細小孔隙が「あり」程度。緻密度は23~26で中~密であり、一般に密な所が多い。PH(H₂O)は5.2~5.9。

尚この統は地点により断面の変化が大きく、所によつては10cm前後の緻密な砂層を挟む所もある。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字古梅(試坑35)

第1層	0~17cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のCLで際はない。発達程度弱の細粒状構造。緻密度は17で疎、PH(H ₂ O)5.6、調査時の
-----	--------	---

第2層	17~52cm	湿り湿、境界は明瞭 腐植を欠く黄褐灰(10YR 4/2)のSiCで際はない。構造は発達程度弱の細塊状、緻密度は24で中、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界は稍明瞭
第3層	52~65cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR 4/2)のLで際はない。構造は無構造(固化状)で細孔隙があり程度。緻密度は28で密、PH(H ₂ O)は5.9、調査時の湿り湿、境界は明瞭
第4層	65~	腐植を欠く黄褐灰(10YR 5/1)のSiCLで際はない。構造は無構造(固化状)で細孔隙はあり程度。緻密度はH ₄ (26)で密、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~17	4.1	8.9	33.9	36.3	20.9	CL	61.9	2.41	4.54	0.44
2	17~52	5.2	0.5	8.0	56.8	34.7	SiC	72.4	2.39	0.78	0.10
3	52~65	2.1	20.6	37.9	28.0	13.6	L	91.0	2.42	0.39	0.05
4	65~	4.9	3.8	16.9	59.7	19.7	SiCL	-	-	0.14	0.05

炭素率	腐植 %	PH			置換陽度 Y1	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数
		H ₂ O	Kcl				CaO	MgO	K ₂ O		
10	7.8	5.6	4.4	1.32	20.5	10.2	1.7	1.2	49.5	692	
8	1.4	5.6	4.4	1.44	10.8	6.2	1.1	0.6	57.2	807	
8	0.7	5.9	4.2	1.08	6.7	2.8	1.1	0.5	41.4	547	
3	0.2	5.9	4.1	1.44	9.1	4.9	1.1	0.5	54.3	127	

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接又は類似する統としては高野中央統、古梅西統、美富西統等があるが、高野中央統とは堆積様式(本統は河成洪積であるが高野中央統は海成洪積)及び下層の彩度が著しく異なる(本統が低い)ので区別され、古梅西統とは表土の土性が異なること(本統は中粒質であるが古梅西統は粗粒質)と、礫を混在する砂層の有無(本統にはない)で、また、美富西統とは腐植層序(本統は表層腐植層であるが美富西統は全層多腐植層)が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積(河成)

B 地形

美幌川沿いに分布する段丘干地

C 気候

年間を通じて冷涼、降雨量少なく、霜害を受けやすい。

年平均雨量 855.8mm、年平均気温 5.6℃（網走測候所）

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、麦類、荳類、馬鈴薯、甜菜、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

本土壤は透水性が多く一般に排水が不良で、融雪期又は大雨の後などは過湿状態となり、また土層が堅密なため地下水位が高い状態となつているので排水施設の完備が望まれる。

F 分布

網走郡美幌町字古梅、豊富、福住田中の一部

調査及び記載責任者 八木沼 純 義（北海道立農業試験場）

昭和38年5月31日

(2) 土壌統の細分

(2) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
古梅中央 - 古梅中央	III W・II t・n

(2) 土壌区別説明

古梅中央 - 古梅中央

示性分級式

土	表	有	表	耕	(((土	透	保	自	保	土	養	置	(障	(傾	自	(侵	(耐		
壤	効	効	土	土	表	表	表	地	水	水	潤	肥	肥	層	換	有	酸	化	傾	傾	人	侵	耐			
生	土	土	土	土	土	土	土	土	性	性	度	力	力	状	効	態	学	的	然	斜	為	蝕	蝕			
産	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	度	度	度	度	度	度	的	的	の	傾	蝕	蝕			
力	厚	深	含	量	易	性	性	性	性	度	度	度	度	度	度	度	性	性	斜	斜	蝕	蝕	性	性		
可	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等		
能	t	d	g	p		w		f		n		i		s		e										
性	III	II	I	I	I	2	1	1	III	3	2	3	I	1	2	2	II	2	2	2	2	1	I	1	1	
等																										
級																					-	-	I	1	1	2
式	簡略分級式 III W II t n																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は古梅中央統に属する。表土は15～40cmで所により差があるが有効土層は1m以上である（但し下層に緻密度が29前後の所もあり、それらの地点では作物の根は容易に伸長できるとは云い難い）。表土に腐はなく、土性は中粒質で、農具使用に当つては特に支障を来さない。保水性は中庸であるが透水性が緻密層のため小で、過湿のおそれが多い。保肥力は大、固定力は小で自然肥沃度は高い。養分含量は石灰、苦土、加里、有効態燐酸共に中庸で中位である。特殊な障害性はなく、地形も平坦で侵蝕はほとんど認められない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され、麦類、荳類、馬鈴薯、甜菜、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本土壌区は地形的に、また、下層に緻密な層を有しているために排水が悪く、大きな阻害要因となつている。従つて排水施設の完備（一部では排水溝が整つている所もある）と、緻密層をできるだけ破碎することが望ましい。

D 分布

網走郡美幌町字古梅、豊富、福住、田中の一部

記載責任者 八木沼 純 義（北海道立農業試験場）

昭和38年3月31日

瑞 治 統

(1) 土壌統概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

本統土壌はヨシ、ハンノキ等の遺体集積よりなる低位泥炭土である。

第1層は厚さ13～20cmで腐植含量は15%前後、土性はLで腐はない。色は10YRの彩度1、明度1で構造は発達程度中の細粒状である。緻密度は5～9で頗る疎、PH(H₂O)は4.7～7.0であるが、一般に5.0以下の所が多い。下層との境界は明瞭である。

尚、本層は客入土壌及び泥濘土が良く混合されている所が多い。

第2層は厚さ8～15cmで分解良好な泥炭に無機土壌が混入しており、その土性はCLである。緻密度は8～15で頗る疎～疎。PH(H₂O)は4.5～5.5。

尚、本層下部に5cm前後の火山灰層が夾在している所もある。

以下第3層で分解稍良好な泥炭よりなり、残余の無機土壌の土性はSiCである。緻密度は8～14で頗る疎～疎、PH(H₂O)は4.0前後。

代表的断面形態

(所在地) 北海道網走郡美幌町字瑞治(試坑No.127)

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒(10YR/1)のLで硬はない。分解良好な泥炭を含み、構造は発達程度弱の細粒状。緻密度は6で頗る疎、PH(H ₂ O)は7.0、調査時の湿り半乾、境界は明瞭。
第2層	20~32cm	分解極めて良好な泥炭よりなり、残余の無機土壌の土性はCL ₆ 。緻密度は14で疎、PH(H ₂ O)は5.4、調査時の湿り湿。境界は明瞭。
第3層	32~	分解稍良好な泥炭よりなり、残余の無機土壌の土性はSiC。緻密度は8で頗る疎、PH(H ₂ O)は4.1、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒徑組成%					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0~20	4.3	19.1	38.9	30.5	11.5	L	62.2	2.44	8.63	0.70
2	20~32	8.0	7.1	21.7	44.3	26.9	CL	30.7	2.01	19.23	1.12
3	32~49	9.4	1.1	9.8	57.9	31.3	SiC	18.6	1.95	27.65	1.39

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰 飽和度 %	燐酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1.2	14.7	7.1	6.8	0.36	35.7	50.0	0.6	0.9	140.0	1.273
1.7	33.2	5.4	5.1	0.84	56.5	35.8	1.2	0.6	63.4	1.455
2.0	47.7	4.1	3.9	10.32	70.7	12.7	1.4	0.8	18.0	5.42

註) 置換性石灰が特に多いのは本地点が石灰を過施用していた圃場のためである。

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としては美富西統があるが、無機質土壌の混入量により本統と区別される(本統は泥炭土壌であるが、美富西統は重泥炭土壌である)。

A-3 母材 ヨシ ハンノキ

A-4 堆積様式 集積

B 地形

網走川流域の低標高平坦地

C 気候

年間を通じて冷涼、降雨量少なく、霜害を受けやすい。

年平均雨量 835.8mm 年平均気温 5.6℃ (網走測候所)

D 植生及び利用状況

一部水田となつている所もあるが、大部分畑地として利用され、麦類、穀類、甜菜などが栽培されているが、附帯地にはヨシ、ヤチダモ等が繁茂している。

E 農業上の留意事項

過湿地のため排水が必要であり、また強酸性を呈する所が多いので酸性矯正をすべである。

F 分布

網走郡美幌町字瑞治の大部分

調査及び記載責任者 八木沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
瑞治 - 瑞治	III w · n II p · f

(2) 土壌区別説明

瑞治 - 瑞治

示性分級式

土壌生産力可厚等級	表土の深さ	表土の難易	耕土の粘性	表土の粘性	表土の風乾土の硬さ	土の乾燥性	透水性	保水性	自然潤肥力	自保肥力	固肥力	土層の塩基状態	養分豊富	置換性石灰含量	有効態苦土里酸	有機態燐	酸化燐	障害性	化学的障害性	物理的障害性	自然障害性	傾斜	人為的傾斜	侵入的傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性	
t	d	g	p			w		f		n		i	s	e														
III	I	I	II	2	1(2)	III	1	2	3	II	1	2	3	III	2	2	3	3	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1

A 土壌統の特徴

この土壌統は瑞治統に属する。表土の厚さは20cm前後で、有効土層は1m以上。表土に際

はなく、土性は中粒質であるが、泥炭に富むため農具を使い当つて極めて抵抗が少なく、土塊を反転し難い。また透水性、保水性共に大なる土壤であるが、地下水位が高く、年間を通じて過湿状態である。また保肥力大で、固定力は小さいが、土層の塩基状態が不良で自然肥沃度は中位であり、養分含量は石灰、苦土が多いが、加里、有効態リン酸が少く、酸度も強いので全体として少ない。特殊な障害性はなく、地形も平坦で侵蝕は殆んど認められない。

B 植生及び利用状況

一部水田となつている所もあるが大部分畑地として利用され、麦類、苺類、甜菜等が栽培されている。附帯地にはヨシ、ハンノキ等が繁茂しており、これらは湿地帯のまま放置されている。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は地下水位が高く、排水が不良なために土地生産力は低く、これが大きな阻害要因となつている。従つて現在ある排水施設をより一層完備して適正な水分を保てる様なものとするべきであり、また客入土量が充分に入っていない所も見受けられるので、それらの個所では引き続き客土を行ふべきである。

一般に酸性が強く、特に下層はその傾向が極めて大きいので石灰の施用も必要である。

C 分布

網走郡美幌町字瑞治の大部分

記載責任者 八木 沼 純 義 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

3 保全対策地区区分及び明説

1) 保全対策地区の設定

地形、気象条件、土壤の断面及び性質、當農状況等を検討し、更に過年度設定の対策区と同一なものとはこれを併合し、次の7保全対策地区とした。

保全対策地区名	該当土壤区	畑面積	主な特徴	重要な保全対策
登栄西保全対策地区	高野中央—4区	140 ha	急傾斜地、 農耕期間短い、 侵蝕大、 農道不備、 作土浅い。	保全耕作 有機物施用 簡易テラス設置 施肥の合理化 農道の整備
	豊幌中央—豊幌中央	15		
		計 155 ha		
高野保全対策地区	高野中央—3区	2,555 ha	平坦～緩傾斜地、 風蝕あり、 土壤の膠質物 含量少、 養肥分の流亡	防風林の設置、 有機物施用、 地表被覆作物の導入、 施肥の合理化、 酸性矯正、
		計2,555 ha		

保全対策地区名	該当土壤区	畑面積	主な特徴	重要な保全対策
美富保全対策地区	美富西—2区	130 ha	平坦 排水不良	排水施設の完備 心土耕 酸性矯正 除鹽(一部) 有機物施用
	美富西—3区	65 ha		
	野崎南—野崎南	90 ha		
	古梅中央—古梅中央	340 ha		
	計	625 ha		
豊幌保全対策地区	登栄中央—2区	120 ha	平坦	有機物施用 施肥の合理化 深耕 酸性矯正(一部)
	豊幌南—1区	40 ha		
	豊幌南—2区	30 ha		
	登栄南—2区	170 ha		
	古梅南—古梅南	60 ha		
計	420 ha			
栄森保全対策地区	栄森—栄森	240 ha	平坦～緩傾斜地稍 排水不良	有機物施用 酸性矯正 排水施設の完備 施肥の合理化深耕 排水施設の完備
	美和西—美和西	60 ha		
	美和東—美和東	190 ha		
計	490 ha			
瑞治保全対策地区	瑞治—瑞治	230 ha	平坦地	客土 酸性矯正
計	230 ha			
古梅保全対策地区	古梅西—古梅西	25 ha	養肥分の流亡	客土 有機物施用

2) 保全対策地区別説明

<登栄西保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積			備考 該当土壤区
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	155 ha	0	155 ha	高野中央—4区 豊幌中央—豊幌中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は気象的に他の対策区より不利な条件となつている。即ち、融雪期が美幌市街近郊の平坦地に比べて1週間から10日も遅れる状態であり、晩霜、初霜の時期も異り、従つて実質上農耕期間は短い。また急傾斜地帯であるために侵蝕による地力の低下が大きく、表土は一般に浅くなつている。これは融雪水によつて起るの勿論であるが、夏季の乾燥した土壌状態に集中雨があるために土壌は浸透力が低下しており、従つて降雨量の殆んどが流去水となり、Rill又はGully-erosionとなつて表土を持ち去るためである。こうした状態の下で一般作物の栽培がなされ、積極的な改良対策がなされていないため、生産性は低く、一部は荒廃に任せている感もある。

これの対策は云々もなく侵蝕の防止であり、一方に於いては堆厩肥や緑肥等の有機物を大量に施用するなどして土壌の肥沃化を計ることが必要である。また、農道に未整備の箇所が多いので、これの整備は急を要する。

② 営農の方向、その他

種々の条件を考え合せると普通作物栽培による営農方式では極めて不利であり、主畜経営が望ましいと考える。これは先に述べた如く有機物が現状では確保できず、従つて切り切つた対策が実施できない現実となつているので、これが対策の有効な一方法とならう。これは家畜による厩肥の増産を計りながら一方では牧草を栽培して3~4年毎にこれを鋤込み、これを地力増進の中心手段とすると同時に侵蝕防止の目的に当てるといふことによる。これの具体的な方法については詳細な検討を要する。

(5) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 簡易テラスの設置	155ha	等高線栽培 堆厩肥増産 緑肥導入	傾斜地用農具の補助 堆厩肥舎の完備 牧草作付面積の増 (種子の補助)	
1. 保全耕作				
1. 有機物施用				
2. 施肥の合理化		指導の徹底	特に牧草についての施肥指導	

② その他必要事項

主畜経営の実施に当つてはその中心となる牧草の栽培が問題になると思われるので、牧草の

低収量がこれを阻むことのない様栽培技術指導の徹底が望まれる。

<高野保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	2,555ha	0	2,555ha	高野中央 - 3区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地形は平坦及び緩傾斜地であり、従つて水蝕は余り問題となる地帯ではないが風蝕の害が大きく、現在防風林の設置などが行なわれているものの特に顕著な効果を示していない状態である。また、このために表土は一般に浅くなつており、腐植含量も概して低い所が多く、従つて大部分は低位生産地帯で豆類の作付が年々多くなつている。

これの対策としてはより効果的な風蝕防止の工夫がなされなければならぬが、牧草を作付して地表を被覆することも一策であると考えられる。これは風蝕防止のみでなく、これを鋤込むことによつて地力の増進にもなり、従つて牧草を取り入れた作付体系の確立により他作物も現在より増収が期待できる土壌となるので、これの励行が望まれる。

また現在防風林の設置がなされていない所もあるが、これらについてはその設置が必要であるが、これは圃場周辺に日陰をつくることにもなるので、設置に当つてはこれを慎重に考慮する必要がある。

本土壌は元来無機態有機物の少い地力の低い土壌であるから施肥に当つてもこれを考慮(生育期間の長い作物においては(甜菜等)生育中期頃より窒素の欠乏を起すことも充分に考えられるので、窒素質肥料は持続性の考慮された形態のもの併用が望ましい)する必要があり、また塩基の流亡なども当然考えられるのでこれを怠らず補給する必要がある。

② 営農の方向、その他

望ましい営農の方向としては登米西保全対策地区と同様なことが云える。

(3) 地力保全対策

(1) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 防風林の設置	2,555ha	牧草作付面積の増	苗木の補助	
2. 地表被覆作物の導入			種子補助	
2. 有機物施用			堆肥肥舎の完備	
2. 施肥の合理化			特に牧草についての施肥指導	
3. 酸性矯正			石灰施用	

(2) その他必要事項

石灰施用に当っては場所によりPHに差があるので、簡易PH測定などを実施して行うことが望ましい。

<美富保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	625ha	0	625ha	美富西 - 2区 美富西 - 3区 野崎南 - 野崎南 古梅中央 - 古梅中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は排水が悪く、これが大きな阻害要因であり、これを排除することによって土壌生産力は増すものと考えられる。

また、排水後はそれぞれの土壌を考慮し、深耕、心土耕のいずれかを行って下層の理化学性を改良する必要がある。

本土壌は一般にPHが低いので石灰施用による酸性矯正が必要であるが、場所によりPHの

差が大きいためこれの実施に当っては簡易PH測定などを行ってから石灰量を決めるべきである。

(2) 営農の方向、その他

現在は救済主体の経営であるが、徐々に混同経営の切り替えが必要となる。

(5) 地力保全対策

(1) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 排水	625ha	排水路の完備		
2. 深耕、心土耕	625ha	耕深30~40cm	大型トラクター3台	共同利用
2. 酸性矯正	625ha	石灰施用	炭カル、消石灰	
2. 有機物施用		堆肥肥舎増産緑肥	堆肥肥舎の完備	
		導入	種子の補助	
2. 除草(一部)	60	機械による		

(2) その他必要事項

排水後に於いては施肥量が多少異なるので注意する必要がある。

<豊幌保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	420ha	0	420ha	登榮中央 - 2区 豊幌南 - 1区 豊幌南 - 2区 登榮南 - 2区 古梅南 - 古梅南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

比較的障害因子は少ないが、生産力増大のためには有機物の増施と、深耕を行ってより土壌の肥

肥沃に努めなければならない。また、適正な施肥管理がなされていない所もあるので施肥指導の徹底が望まれる。

(2) 営農の方向、その他

この対象区は本町でも地形的、土質的条件が良い方で一般に土壌の生産力は高く、比較的安定した営農を行つている。しかし、作付体系は矢張り専作偏重の傾向にあるので、できるかぎりこれを避けて5年程度に一度は緑肥を鋤込むことも恒久的な地力保持のために必要なことと思う。(また、一部に強酸性を呈している所もあるので、これについては石灰の施用が必要である。)

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 深耕	420ha	耕深30cm	大型トラクター 4台	共同利用
1. 有機物施用		緑肥導入	種子の補助	
		堆肥増産	堆肥舎の完備	
2. 酸性矯正		石灰施用	炭カル、消石灰	

(2) その他必要事項

石灰施用に当つてはその量が過ぎると甜菜の作付時に硝素欠乏の虞れがあるので注意を要する。

< 栄森保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	490ha	0ha	490ha	栄森 - 栄森 美和西 - 美和西 美和東 - 美和東

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対象地区は所謂沖積土壌地帯に当り、従つて殆んど平坦地よりなつている。しかし、低標高なために排水不良地が多いので排水施設を完備することと、下層の理化学性が一般に不良な所が多いので深耕の必要があり、また地力増進のためには有機物の施用が必用である。

尚、強酸性を呈する所が多いので、これらには石灰を施用すべきである。

② 営農の方向、その他

望ましい営農の方向としては美富保全対策地区と同様なことが云える。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 排水	490ha	排水路の完備		
1. 酸性矯正	500ha	石灰施用	炭カル、消石灰	
1. 有機物施用	490ha	堆肥増産	堆肥舎の完備	
		緑肥導入	種子の補助	
1. 深耕	490ha	耕深30cm	大型トラクター 4台	
2. 施肥の合理化	490ha	指導の徹底		

(2) その他必要事項

本対象区は全般的に土壌の生産力が高いので暴発的になりがちであるが、恒久的な地力維持のため前記の対策を遂行すべきである。

< 瑞治保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
網走郡美幌町	255ha	0ha	255ha	瑞治 - 瑞治

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策区は泥炭土壌で排水が悪く、無機土壌が少いので一段に生産力は低い、一部には排水施設が完備されている所もある。又、殆んどが強酸性土壌なので石灰の施用が必要である。

② 営農の方向、その他

本地区は特殊土壌地帯であるから土壌改良を重点的に取り上げていかなければ生産の向上は望めない。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 排水	250ha	排水路の完備		
1. 客土	"			
1. 酸性矯正	"	石灰施用	炭カル、消石灰	

② その他必要事項

泥炭土は有機質土壌であるが堆肥施用の効果があるのでこれを忘れてはならない。

<古梅保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑 面 積			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
洞走郡美幌町	25ha	0ha	25ha	古梅西 - 古梅 - 西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策区の土壌は無機質物含量が少く、又、腐植も特に大い方ではないので固肥力が中若しくは小さい為、養肥分の流亡等があり、土壌の生産力は低い。従つて良質粘土の客入及び有機質の増施により、これの解決を計らねばならない。

② 営農の方向、その他

本対策区の分布面積が少いので、これを省略する。(大部分の農家は本対策区に含まれる畑地を耕地の一部として所有している)

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量	備考
1. 客土	25ha			
1. 有機物施用	"	堆肥増産		
		緑肥導入	堆肥舎の完備	
1. 施肥の合理化	"	指導の徹底	粒状肥料の使用	(肥切防止)

② その他必要事項

栽培期間の長い作物では生育後期に特に窒素欠乏を起し易いので注意を要する。

4 調査成績一覧表

1) 土壌断面調査成績

土壌区	地点番号	色(明度)	腐植土性	構造	層	孔隙	組密	浸り	傾斜	侵蝕	現地土性 (実地調査による)
高野中央1三区	18	10YR(1) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (20)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	Wn ₂	L L
	21	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (19)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	22	10YR(2) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (2)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₂	—
	25	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (13)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	E ₂ Wn ₁ ²	L L
	27	10YR(1) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)ab	H ₂ (1) H ₃ (2)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ₂	L L
	28	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (17)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L L
	32	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (12) H ₂ (13)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ₂ Wn ₁ ²	L L
	39	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (19)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	40	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	I ₁ (6) H ₂ (10)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ₁ Wn ₁ ²	L L

土壌区	地点番号	色(明度)	腐植土性	構造	層	孔隙	組密	浸り	傾斜	侵蝕	現地土性 (実地調査による)
高野中央1三区	44	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₂ (10)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	E ₁ Wn ₁ ²	L L
	46	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (10)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ₂ Wn ₁ ²	L L
	47	10YR(2) 10YR(3)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (19)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	Wn ₂	—
	50	10YR(2) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (12) H ₂ (10)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	—
	52	10YR(3) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (10)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L SL
	53	10YR(3) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (10) H ₂ (19)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	54	10YR(2) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	—	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	56	10YR(2) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (14)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	71	10YR(3) 10YR(4)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (13)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	L L
	73	10YR(1) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (14) H ₃ (20)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ₂	L SL
75	10YR(2) 10YR(3)	(H) (H)	grf grf/grf	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (1)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	Wn ₁	L L	
78	10YR(2) 10YR(5)	(H) (H)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (10) H ₂ (1)	$\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	—	—	

土 壤 区	地 点 番 号	色 (明 度)	腐 植 土 性	耕 性	耕 造	深	孔 隙	粗 密	湿 少	傾 斜	侵 蚀	现 地 土 性 (学 会 法 上)	
高 野 中 央 一 三 区	79	10YR(2) 7.5YR(3)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ 00 H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	—	L L	
	80	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn Bl	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ 00 H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	—	L L	
	81	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	82	10YR(1) 10YR(1)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ 20	W ₂ W ₂	S ₂	E ₂ Wn ₁ ⁴	L L	
	84	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (4)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	85	10YR(2) 10YR(6)	(H ₃) (H ₄)	L SL	—	gn MS	OK a ₁	H ₁ (6) H ₂ 20	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	—	—
	86	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (1)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	87	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (7)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	L L	
	89	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	90	10YR(3) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn bF	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ 00 H ₂ 20	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	L L	
	91	7.5YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	

高 野 中 央 一 三 区	92	10YR(1) 10YR(3)	(H ₃) (H ₄)	—	gn gn	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ 00 H ₂ (6)	W ₂ W ₂	S ₁	—	L L	
	93	10YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₃ 20	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	L L	
	94	7.5YR(2) 10YR(6)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	W ₂ W ₂	S ₂	Wn ₁	L L	
	95	7.5YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (4)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	96	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	SL SL	—	gn MS	—	H ₁ (6) H ₂ (3)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	—	—
	97	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	L L	
	98	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn blBl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ 00 H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₂	E ₂ Wn ₁ ²	L L	
	99	10YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn Bl/bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	E ₁ Wn ₁ ²	L L	
	100	7.5YR(3) 7.5YR(6)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (2) H ₂ 00	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₁	L L	
	101	7.5YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	W ₂ W ₂	S ₁	—	L L	
	102	10YR(3) 10YR(6)	(H ₃) (H ₄)	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	L L	
	103	10YR(3) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	L CL	—	gn MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (2) H ₂ (6)	W ₂ W ₂	S ₁	Wn ₂	—

土地区	地点番号	色(明度)	腐植	土性	構造	隙	孔隙	粗密	傾斜	侵蝕	現地土性
高野中央一三区	104	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L
	105	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (4)	S ₁	Wn ₂	L L
	106	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (9) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L
	107	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L
	108	10YR(2) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (2)	S ₁	—	L L
	109	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (4)	S ₁	Wn ₂	L SL
	110	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (6) H ₂ (3)	S ₁	Wn ₂	L L
	111	10YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	S ₁	Wn ₁	L L
	112	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₂	L L
	113	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ BL ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (4) H ₃ (3)	S ₁	—	L L
	114	10YR(3) 10YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ BL ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	S ₂	E ₂	L CL

高野中央一三区	115	10YR(1) 10YR(3)	(H ₄) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (7) H ₂ (9)	S ₁	Wn ₁	L L
	116	10YR(5) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ BL ₂	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (2)	S ₁	Wn ₂	L L
	118	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L
	119	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L
	120	10YR(2) 10YR(5)	(H ₃ -4) (H ₃)	L L	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	—
	121	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (4)	S ₁	Wn ₂	L L
	122	10YR(3) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ BL ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (3)	S ₂	Wn ₂	L L
	123	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (9)	S ₁	Wn ₁	L L
	124	10YR(2) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	SL SL	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (9)	S ₁	Wn ₁	—
	130	10YR(3) 10YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (7) H ₂ (2)	S ₁	Wn ₂	L L
	131	10YR(2) 7.5YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (6)	S ₂	E ₁ Wh ₁	L L
	133	10YR(3) 7.5YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr ⁺ MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₁	L L

土壤区	地点 番号	色 (明度)	腐植 性	構造	煤	孔隙	粗密 湿度	傾斜	侵蝕	現地土性 (標準法による)
高野中央 一三区	135	10 Y R(3) 10 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (4) H ₂ (2)	S ₁	Wn ₂	L L
	136	10 Y R(2) 10 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₂	L L
	137	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (4)	S ₁	Wn ₂	L L
	140	10 Y R(2) 10 Y R(7)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₁ (6)	S ₁	Wn ₂	L SL
	143	10 Y R(3) 10 Y R(6)	(H ₃) (H ₄)	grf bl/bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₂	L L
	144	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (2) H ₃ (6)	S ₁	E ₁ Wn ₂	L L
	145	10 Y R(3) 10 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (2) H ₂ (6)	S ₁	E ₁ Wn ₂ ^s	L L
	148	10 Y R(2) 10 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (2)	S ₁	Wn ₂	L L
	149	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (6)	S ₁	Wn ₂	L L
	152	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (2) H ₃ (2)	S ₁	Wn ₁	L L
	153	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (7) H ₃ (2)	S ₁	Wn ₂	L CL

高野中央 一四区	154	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (8)	S ₁	Wn ₂	L L
高野中央 一四区	57	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf OKa ₂ b ₂	—	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (9) H ₂ (8)	S ₂	E ₂ Wn ₁ ^s	L SL
	41	10 Y R(1) 10 Y R(6)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	OKa ₂ b ₁	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (3)	S ₃	E ₂ Wn ₁ ^s	L L
	45	10 Y R(1) 10 Y R(6)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	OKa ₂ b ₁	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (9)	S ₃	E ₂ Wn ₁ ^s	L L
	59	10 Y R(3) 10 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₃ (2)	S ₁	Wn ₂	L L
	62	10 Y R(2) 10 Y R(6)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	OKa ₁	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (3)	S ₃	E ₃	L L
	63	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (5) H ₂ (6)	S ₂	E ₂	L L
	64	10 Y R(1) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (4) H ₂ (6)	S ₃	E ₂	L CL
	66	10 Y R(2) 10 Y R(6)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₃ (2)	S ₂	E ₂ Wn ₁ ^s	L L
	67	7.5 Y R(3) 7.5 Y R(5)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₃ (2)	S ₂	E ₂ Wn ₁ ^s	L L
	68	10 Y R(1) 10 Y R(8)	(H ₃) (H ₄)	grf bl ₁	OKa ₂ b ₁	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₂ (2)	S ₂	E ₂ Wn ₁ ^s	CL SL
	69	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(H ₃) (H ₄)	grf MS	OKb ₁	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (2) H ₂ (2)	S ₁	—	L SL

土壌区	地点番号	色(明度)	腐植	土性	構造	隙	孔隙	粗密	湿り	傾斜	侵蝕	現地土性 (後学芸法による)
高野中央 一四区	72	10 YR(3) 10 YR(5)	(H ₃) (H ₄)	L L	gr MS		(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (16)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3-3}$	S ₂	Wn ₁	—
	30	10 YR(1) 10 YR(3)	(H ₃) (H ₂)	—	gr/MS MS		(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (11) H ₃ (13)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L L
登米中央 一、二区	33	10 YR(1)	(H ₄)	—	gr		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (13) H ₃ (17)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	E ₂	L L
	51	10 YR(1) 10 YR(2)	(H ₄) (H ₄)	L L	gr gr		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (17)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		—
	83	10 YR(2) 10 YR(5)	(H ₄) (H ₄)	—	gr MS		(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (10) H ₃ (20)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		L L
	125	10 YR(2) 10 YR	(H ₄) (H ₄)	—	gr MS		(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (17)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		L CL
	158	10 YR(2) 10 YR(3)	(H ₄) (H ₄)	—	gr/Gr MS		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₂ (16)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		L L
	61	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃₋₄) (H ₂)	L L	gr bl ₂	OK a ₁	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₃ (21)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	E ⁵ Wn 1-2, 1-2	—
	65	10 YR(2) 10 YR(5)	(H ₄) (H ₄)	—	gr Bl ₂	OK a ₂ b ₂	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (12) H ₃ (21)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₂	E ⁸ Wn ₁ ²	L L
	129	10 YR(2) 10 YR(5)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂ /bl ₂		(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (10) H ₃ (22)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L L
	134	7.5 YR(2) 7.5 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂ /bl ₂		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (18) H ₃ (21)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		CL C

登米南 一、二区	141	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂ /bl ₂		(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (12) H ₃ (24)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L CL
	142	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂ /bl ₂		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (17)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₂	L L
	147	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂ /bl ₂		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₃ (24)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L CL
	151	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₂		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₃ (23)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L CL
美富西 一、二区	55	10 YR(2) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr MS		(ch)a ₁ b ₁	H ₁ (6) H ₃ (24)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		L L
	70	10 YR(3) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄)	—	gr Bl ₁		(ch)a ₁ b ₁	H ₁ (6) H ₂ (15)	$\frac{W_2}{W_4}$ $\frac{W_2}{W_4}$	S ₁		L C
	74	10 YR(3) 10 YR(2)	(H ₃) (H ₃)	L SiC	gr			H ₁ (6) H ₂ (13)	$\frac{W_3}{W_3-4}$ $\frac{W_3}{W_3-4}$	S ₁		—
	76	10 YR(3) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₄₋₅)	—	gr Bl ₁		(ch)a ₂ b ₁	H ₂ (14) H ₂ (14)	$\frac{W_3}{W_3}$ $\frac{W_3}{W_3}$	S ₁		L C
	77	10 YR(2) 10 YR(2)	(H ₃) (H ₄₋₅)	—	gr Bl ₁		(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (14)	$\frac{W_2}{W_3}$ $\frac{W_2}{W_3}$	S ₁		L CL
美三 富区 西 一	156	10 YR(3) 10 YR(4)	(H ₃) (H ₃)	—	gr pl		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (7) H ₃ (20)	$\frac{W_3}{W_4}$ $\frac{W_3}{W_4}$	S ₁		L C
	36	10 YR(2) 10 YR(3)	(H ₃) (H ₃₋₃)	—	gr MS		(ch)a ₁ b ₁	H ₁ (8) H ₃ (20)	$\frac{W_3}{W_3}$ $\frac{W_3}{W_3}$	S ₁	Wn ₁	L SL
	38	10 YR(2) 10 YR(2)	(H ₄) (H ₄)	SL L	gr Bl ₁		(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (14)	$\frac{W_3}{W_3}$ $\frac{W_3}{W_3-4}$	S ₁	Wn ₁	—

土 壤 区	地点 番号	色 (明 度)	腐 植	土 性	構 造	隙	孔 隙	粗 密	湿 少	傾 斜	侵 蝕	現 地 土 性 (農 業 用 途)
美 富 西 一 三 区	42	10 Y R(2) 10 Y R(1)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H H ₂ (10) H ₁ (9)	W ₃ W ₂	S ₂	E ₂ Wh ₁ ⁵	L L
	158	10 Y R(6) 10 Y R(7)	(E ₃) (E ₄)	—	gr/gr Pr	—	(ch)a ₁ b ₁	H ₂ (10) H ₁ (9)	W ₃ W ₄	S ₁	—	L C
	159	10 Y R(6) 10 Y R(1)	(E ₃) (E ₄)	CL CL	gr pr	—	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (7) H ₂ (20)	W ₂ W ₄	S ₁	—	—
	160	10 Y R(2) 10 Y R(6)	(E ₃) (E ₄)	—	gr bl ₂	○Kp ₂ c ₂ ○Ka ₁ b ₂ c ₂	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (10) H ₂ (20)	W ₃ W ₄	S ₁	—	L L
豊 後 南 一 一 区	60	10 Y R(1) 10 Y R(1)	(E ₃) (E ₄)	L CL	gr gr/gr	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (10)	W ₂ W ₃	S ₂	E ₂ Wh ₂ ⁵	—
	128	10 Y R(2) 10 Y R(1)	(E ₃) (E ₄)	L SiL	gr gr/gr	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (7) H ₂ (18)	W ₂ W ₃	S ₁	—	—
豊 後 中 央 豊 後 中 央	26	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄ -2)	—	gr MS	○Ka ₁ b ₂ c ₁ ○Ka ₁ b ₁ c ₂	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (10) H ₂ (10)	W ₂ W ₂₋₃	C ₄	E ₂ Wh ₁ ⁵	L L
	1	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	—	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (9) H ₂ (19)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L
栄 森 一	7	10 Y R(2) 10 Y R(5)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (18)	W ₂ W ₃	S ₁	—	CL L
	9	7.5 Y R(2) 10 Y R(5)	(E ₃) (E ₄)	—	gr Bl ₁	—	(ch)a ₁ b ₁	H ₂ (11) H ₃ (21)	W ₂ W ₄	S ₁	Wn ₁	CL C
栄 森	10	10 Y R(3) 10 Y R(5)	(E ₃) (E ₄)	—	gr bl ₂	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (11) H ₃ (19)	W ₂ W ₃	S ₂	—	L CL
	11	10 Y R(1) 10 Y R(5)	(E ₃ -3) (E ₄)	—	gr Bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₂ (17)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L

栄 森 一	12	10 Y R(1) 10 Y R(5)	(E ₃) (E ₄)	—	gr/gr MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₂ (12) H ₃ (18)	W ₃ W ₃	S ₁	—	L L
	13	10 Y R(1) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr Bl ₂	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (8) H ₂ (16)	W ₂ W ₃	S ₁	E ₁ Wh ₁ ⁵	L L
栄 森 一	14	10 Y R(1) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (10)	W ₂ W ₂	S ₁	—	L
	15	10 Y R(1) 10 Y R(7)	(E ₃ -4) (E ₄)	—	gr Bl ₁	—	(ch)a ₁	H ₁ (6) H ₂ (8-2)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L C
栄 森	16	10 Y R(2) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	LiC HC	gr ³ bl ₁ -2	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (10)	W ₂₋₃ W ₃	S ₁	—	—
	17	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr bl ₁	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (9) H ₂ (19)	V ₂ W ₃	S ₂	E ₂ Wh ₁ ⁵	L C
美 和 東 一	2	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	○Ka ₂ ○Ka ₂ b ₂ c ₁	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (10)	V ₂ W ₃	S ₁	—	L L
	4	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	CL SCL	gr MS	—	(ch)a ₂ b ₂	H ₁ (8) H ₂ (10)	W ₂ W ₃	S ₁	—	—
美 和 東 一	6	7.5 Y R(3) 10 Y R(3)	(E ₃ -3) (E ₄)	—	gr/gr MS	—	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (10) H ₂ (10)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L
	8	7.5 Y R(3) 7.5 Y R(4)	(E ₃) (E ₄)	—	gr MS	○Ka ₁ b ₂ c ₂ ○Ka ₁ b ₂ c ₂	(ch)a ₂ b ₁	H ₁ (6) H ₁ (8)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L
美 和 東	157	10 Y R(3) 10 Y R(4)	(E ₃ -3) (E ₄)	—	gr bl ₃	—	(ch)a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (10)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L
	3	10 Y R(1) 10 Y R(5)	(E ₃) (E ₄)	—	gr Bl ₂	○K'K'a ₁ c ₁	(ch)a ₂ b ₁	H ₂ (12) H ₂ (10)	W ₂ W ₃	S ₁	—	L L

土 壤 区	地 点 番 号	色 (明 度)	腐 植	土 性	構 造	際	孔 隙	粗 密	傾 斜	侵 蝕	現 地 土 性 (農 業 法 C I 3)
美 和 西	5	10 Y R (1) 10 Y R	(H ₁) (H ₂)	LiC LiC	gr ^r bl ₁	OK' a ₁ - ₂	(ch) a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (10)	S ₁		L
	19	10 Y R (1) 10 Y R (5)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS	OK' a ₁ c ₂	(ch) a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (13) H ₂ (14)	S ₁	Wn ₂	L
古 樺 南	20	10 Y R (1) 10 Y R (2)	(H ₁) (H ₂)	L L	gr ^r gr ^r		(ch) a ₂ b ₂	H ₁ (9) H ₂ (10)	S ₂	Wn ₁	L
	23	10 Y R (1) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS		(ch) a ₂ b ₂	H ₂ (14) H ₂ (17)	S ₁		L L
古 樺 南	24	10 Y R (1) 10 Y R (4)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS		(ch) a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (16) H ₂ (19)	S ₁	Wn ₁	L L-SL
	31	10 Y R (1) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r Sn	OK' a ₁ OK' a ₂ - ₄		H ₁ (10) H ₃ (14)	S ₁		S
古 樺 西	34	10 Y R (2) 10 Y R (4)	(H ₁) (H ₂)	SL S	gr ^r Sn			H ₂ (13) H ₂ (19)	S ₁		CL
	29	10 Y R (2) 10 Y R (5)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS		(ch) a ₁	H ₁ (9) H ₃ (14)	S ₁		C
古 樺 中 央	35	10 Y R (2) 10 Y R (4)	(H ₁) (H ₂)	CL SiC	gr ^r bl ₁		(ch) a ₁ b ₁	H ₂ (17) H ₃ (19)	S ₁		L
	43	10 Y R (3) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)		MS bl ₁		(ch) a ₂ b ₁	H ₂ (14) H ₃ (19)	S ₁		C
古 樺 中 央	48	10 Y R (2) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)	L SiC	gr ^r bl ₁		(ch) a ₂ b ₁	H ₁ (6) H ₂ (18)	S ₁		

古 樺 中 央	49	10 Y R (1) 10 Y R (5)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS		(ch) a ₂ b ₂ c ₁	H ₁ (6) H ₂ (18)	S ₁	E ₂	L L
	57	10 Y R (2) 10 Y R (4)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r MS		a ₂ b ₂		S ₁		L L
古 樺 中 央	58	10 Y R (3) 10 Y R (5)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r Sn	OK' a ₁ b ₁	(ch) a ₁ b ₁	H ₂ (14) H ₃ (19)	S ₁		L S
	88	10 Y R (3) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r		(ch) a ₂ b ₁	H ₁ (6) H ₃ (12)	S ₁		L CL
古 樺 中 央	117	10 Y R (1) 10 Y R (4)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r bl ₁		(ch) a ₂ b ₂ c ₁	H ₂ (14) H ₂ (17)	S ₁		L C
	132	10 Y R (3) 10 Y R (5)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r bl ₁		(ch) a ₂ b ₂	H ₁ (6) H ₂ (13)	S ₁		L C
瑞 治	155	10 Y R (3) 10 Y R (3)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r bl ₁ /MS		(ch) a ₂ b ₁	H ₂ (12) H ₃ (19)	S ₁	Wn ₁	L C
	126	10 Y R (2) 10 Y R (1)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r /MS			H ₁ (8) H ₂ (14)	S ₁		L
瑞 治	127	10 Y R (1) 10 Y R (1)	(H ₁) (H ₂)	L CL	gr ^r			H ₁ (6) H ₂ (14)	S ₁		
	139	10 Y R (3) 10 Y R (2)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r			H ₁ (5) H ₁ (8)	S ₁		L
瑞 治	146	10 Y R (3) 10 Y R (2)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r			H ₂ (14) H ₂ (19)	S ₁		L
	150	10 Y R (2) 10 Y R (1)	(H ₁) (H ₂)		gr ^r			H ₁ (9) H ₁ (8)	S ₁		L

2) 分析成績表

保 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										
					風乾土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
高 野 保 策 区	高 野	22	1	~11	4.6	8.8	23.3	39.5	62.8	28.9	8.3	L	68.9	25.4	38.9
			2	~25	11.3	7.1	15.9	47.4	63.3	33.1	3.6	L	61.2	23.5	39.7
			3	~57	5.2	2.2	27.1	51.1	78.2	18.4	3.3	SL	75.4	29.3	34.0
		47	1	~22	5.9	12.9	16.8	45.8	62.6	31.9	5.5	L	64.1	25.7	37.5
			2	~42	8.0	7.0	14.5	44.4	58.9	41.1	0.0	L	56.8	21.2	45.5
			3	42~	5.5	2.0	10.8	38.4	49.2	44.2	6.9	L	60.0	22.0	49.0
		50	1	~17	5.0	10.7	13.7	40.6	54.3	40.0	5.7	L	60.7	24.4	36.9
			2	~38	7.7	5.2	9.2	48.6	57.8	11.7	30.5	SC	60.8	22.5	44.9
			3	38~	8.4	1.6	5.1	47.7	52.8	47.2	0.0	SIL	55.6	20.1	42.1
	78	1	~23	4.4	9.3	21.9	38.4	60.3	32.6	7.1	L	71.2	27.3	38.5	
		2	~45	8.1	5.6	10.2	41.9	52.1	45.7	2.2	SIL				
		3	45~	5.2	1.3	8.0	40.4	48.4	41.6	9.9	L	78.7	28.6	48.1	
	85	1	~13	5.4	7.6	9.8	47.4	57.2	33.5	9.3	L	66.5	25.3	41.3	
		2	~49	7.3	4.4	5.1	50.3	55.4	41.8	2.8	L	63.0	22.5	50.4	
		3	49~	5.2	0.1	14.7	65.7	80.4	17.6	2.0	SL				
	96	1	~15	4.3	8.4	25.5	41.2	66.7	26.3	7.1	SL	65.1	25.6	32.0	
		2	~53	8.1	2.5	16.0	55.4	71.4	27.3	1.1	SL	57.9	21.2	38.3	
		3	53~	6.9	1.6	11.9	69.3	81.2	18.1	0.7	SL	67.1	24.1	39.5	
	103	1	~21	5.3	7.9	11.3	47.5	58.8	36.5	4.7	L	69.7	26.2	46.5	
		2	~48	6.6	1.6	2.6	38.0	40.6	41.2	18.2	SL	67.0	24.4	45.3	
		3	38~	4.0	0.7	10.0	35.3	45.3	34.0	20.7	CL	111.1	39.7	42.6	
	120	1	~15	5.9	9.9	15.1	40.8	55.9	34.6	9.5	L	73.0	28.3	45.7	
		2	~48	7.7	4.4	11.8	48.8	60.0	37.5	1.9	L	57.7	20.7	52.4	
		3	48~	4.5	1.1	27.7	47.8	75.5	22.7	1.9	SL	78.0	28.9	45.0	
124	1	~15	4.5	8.8	17.2	49.0	66.2	25.9	7.9	SL	64.8	24.5	35.4		
	2	~41	6.3	2.9	2.0	69.5	71.5	26.0	2.5	SL	64.9	23.5	45.4		
	3	41~	6.5	1.3	1.3	61.3	62.6	32.6	4.7	L	71.8	26.3	47.1		
西 保 策 区	72	1	~17	4.4	6.4	8.2	46.3	54.5	36.0	9.5	L	58.0	21.6	39.5	
		2	~31	6.7	5.4	3.4	43.6	47.0	45.2	7.8	SIL	62.6	22.3	49.1	
		3	~54	6.6	3.7	2.8	51.8	54.6	43.8	1.6	L	68.2	25.1	47.6	
		4	54~	4.6	0.7	1.8	42.0	43.8	43.0	13.2	L				
東 保 策 区	74	1	~26	5.5	24.6	3.5	48.9	52.4	38.5	8.5	L	36.7	17.3	45.9	
		2	~39	8.8	53.0	0.7	9.8	10.5	55.8	33.7	SIC	14.1	12.1	76.7	

100CC容中		化 学 性													
空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	P H		置 換 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 量 me	置 換 性 塩 基			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 收 係 数	有 効 燐 酸 mg	
		H ₂ O	kc1		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K ₂ O mg				
35.7	74.6	6.0	5.2	0.60	5.03	0.38	13	19.5	395.3	18.7	79.6	72.2	1335	5.0	
36.8	76.5	6.1	5.4	0.60	4.09	0.35	12	19.2	274.1	32.2	45.1	50.9	1845	1.0	
36.7	70.7	6.3	5.4	0.48	1.28	0.13	10	7.9	78.5	22.6	67.5	35.7	1354	0.1	
36.8	74.3	6.1	4.9	0.76	7.45	0.54	14	29.4	495.9	26.6	29.8	60.2	1623	1.0	
33.3	78.8	6.9	5.6	0.48	4.01	0.28	13	17.8	134.1	19.4	26.1	45.1	2288	0.1	
29.0	78.0	7.0	5.6	0.36	1.14	0.10	12	16.3	346.6	41.5	80.4	75.7	1340	0.1	
38.7	75.6	6.2	5.3	0.60	6.25	0.46	13	31.9	444.1	71.4	54.8	49.6	1260	5.0	
32.6	77.5	5.9	5.1	0.84	3.02	0.30	10	15.0	145.1	26.4	47.7	34.6	2080	0.1	
37.9	79.9	6.6	5.2	0.60	0.94	0.16	6	12.2	146.3	35.1	24.0	42.8	1983	0.1	
34.2	72.7	6.1	4.7	1.08	5.38	0.44	12	23.7	399.7	26.1	35.6	60.3	1153	5.0	
		5.9	4.7	0.96	3.20	0.42	9	20.8	151.2	27.2	28.3	25.9	2135	0.1	
23.3	71.4	6.2	4.5	1.32	0.76	0.10	8	11.9	99.5	41.4	42.2	30.1	1283	0.1	
33.4	74.7	6.0	4.6	0.84	4.43	0.41	11	22.5	351.5	18.9	34.9	55.7		1.0	
27.1	77.5	5.9	5.1	0.72	2.55	0.25	10	16.1	166.0	27.0	35.6	36.9		0.1	
		6.3	5.0	0.72	0.07	0.10		7.9	68.1	18.8	50.6	30.9		1.0	
42.4	74.4	6.6	5.1	0.72	4.85	0.36	14	21.7	492.7	52.2	33.4	81.1	1045	5.0	
40.5	78.8	6.7	5.4	0.48	1.44	0.21		12.7	194.4	27.2	34.8	54.4	1928	0.1	
36.4	75.9	6.6	5.1	0.72	0.91	0.11	9	10.9	111.9	34.5	38.7	36.8	1630	0.1	
27.3	73.8	6.7	5.4	0.60	4.60	0.37	12	25.2	507.7	9.4	16.5	71.8	1537	1.0	
30.3	75.6	6.3	4.5	1.20	0.94	0.13	7	19.1	255.6	66.8	34.1	47.8	1654	0	
17.7	60.3	6.4	4.5	1.20	0.42	0.06	7	9.8	93.7	55.8	14.4	34.1	775	0	
26.0	71.7	6.1	4.8	0.84	6.12	0.46	13	20.4	406.2	41.7	34.7	71.0	1700	1.0	
26.9	79.3	6.4	5.0	0.60	2.79	0.25	11	13.5	236.5	34.8	71.9	62.6	2068	0.1	
26.1	71.1	6.7	4.8	0.96	0.69	0.08	8	10.6	93.5	33.6	67.6	31.6	989	1.0	
40.1	75.5	6.3	5.0	0.84	5.13	0.39	13	25.4	324.8	21.0	59.6	45.7	1295	5.0	
31.1	76.5	6.3	5.4	0.72	1.68	0.20	8	11.5	109.2	28.6	32.5	33.9	1940	0	
26.6	73.7	6.6	5.6	0.60	0.75	0.11	7	11.1	109.4	31.0	20.1	35.0	1672	0.1	
38.9	78.4	6.2	5.2	0.84	3.63	0.35	11	25.6	249.2	29.9	39.7	34.7	1206	1.0	
28.6	77.7	5.7	4.7	1.44	3.10	0.27	12	17.7	117.1	30.6	27.9	23.6	2055	0.1	
27.3	74.9	5.6	4.5	2.52	2.15	0.18	12	15.5	79.7	22.9	32.1	18.3	1795	0.1	
		6.0	4.3	3.84	0.44	0.08	5	14.5	93.6	67.3	33.5	23.1	1147	0	
36.8	82.7	4.8	4.1	6.60	1425	1.09	13	34.9	262.5	34.0	31.7	26.8	928	1.0	
11.2	87.9	4.5	4.1	5.16	3071	1.74	18	61.8	261.1	23.5	43.8	15.1	1062	0	

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学										
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土性	現地における理学		
					水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	砂合計%	シルト%	粘土%		容積重g	固相容積CC	水分容積CC
美富保全対策地区	美富西一三区	38	3	~60	9.2	33.9	0.2	11.2	11.4	54.5	34.1	SIC	3.08	14.7	74.0
			1	~20	3.8	11.9	20.0	49.6	69.6	17.0	13.3	SL	6.63	23.1	47.4
			2	~27	2.1	4.9	32.0	40.7	72.7	21.5	5.7	SL	5.91	24.5	48.2
			3	~35	6.4	16.1	5.6	43.7	49.3	32.4	18.3	CL	3.82	16.8	57.4
			4	~40	7.5	15.7	14.6	33.9	48.5	43.6	7.9	L			
		5	~55	4.2	4.6	25.2	46.4	71.6	24.9	3.6	SL				
野崎南一南	159	1	~16	4.2	8.7	7.2	37.8	45.0	36.4	18.7	CL	7.24	28.7	39.7	
		2	~26	4.6	5.2	8.8	33.7	42.5	34.6	22.8	CL	85.0	32.2	42.9	
		3	26~	4.4	1.3	3.7	41.3	45.0	38.4	16.7	CL	115.8	42.5	36.5	
瑞治保地区	瑞治一瑞治	127	1	~20	4.3	14.7	19.1	38.9	58.0	30.5	11.5	L	6.22	25.4	51.7
			2	~32	8.0	33.2	7.1	21.7	28.8	44.3	26.9	CL	3.07	15.2	67.1
			3	~49	9.4	47.7	1.1	9.8	10.9	57.9	31.3	SIC	18.6	9.5	65.7
美富保全対策地区	古梅中央一古梅中央	55	1	~17	4.1	7.8	8.9	33.9	42.8	36.3	20.9	CL	61.9	25.6	48.4
			2	~52	5.2	1.4	0.5	8.0	8.5	56.8	34.7	SIC	7.24	30.2	47.3
			3	~65	2.1	0.7	20.6	37.9	58.5	28.0	13.6	L	9.10	37.6	49.2
			4	65~	4.9	0.2	3.8	16.9	20.7	59.7	19.7	SICL			
古梅西一西	34	1	~17	4.7	9.5	12.7	38.9	51.6	35.5	12.9	L	6.67	24.1	52.7	
		2	~28	4.3	10.0	15.6	39.1	54.7	33.9	11.4	L	6.74	24.8	60.7	
		3	~48	6.4	8.7	0.5	10.6	11.1	60.9	28.0	SIC	4.97	18.5	69.9	
		4	~60	1.3	1.8	46.6	43.2	89.8	6.6	3.5	LS				
豊帆保全対策地区	豊帆中央一豊帆南一	51	1	~17	2.5	6.1	32.1	42.2	74.3	17.9	7.7	SL	7.40	29.1	37.1
			2	~30	2.6	2.1	21.8	51.4	73.2	23.6	3.2	SL	4.42	18.7	36.4
			3	~40	1.5	1.3	48.2	42.0	90.2	7.8	1.9	S	7.75	28.9	36.6
			1	~17	5.4	16.0	13.2	41.2	54.4	34.8	10.9	L	5.69	23.5	43.1
		2	~38	7.9	18.6	10.1	41.2	51.3	42.9	5.8	L	6.38	25.9	60.0	
		3	~45	9.1	13.9	5.8	40.5	46.3	48.1	5.5	L				
		4	45~	7.3	3.6	4.2	53.8	58.0	39.4	2.6	L				
豊帆保全対策地区	60	1	~18	4.7	9.7	12.1	44.2	56.3	29.2	14.6	L	7.08	28.1	41.2	
		2	~32	5.7	13.2	11.1	37.8	48.9	33.4	17.6	CL	7.36	28.9	48.7	
		3	~45	5.2	7.3	11.9	26.0	37.9	40.2	21.8	CL	8.04	29.8	44.4	
		4	45~	3.7	1.9	12.1	26.0	38.1	33.1	28.9	LIC				

性	注100cc中	化 学 性														
		PH		置換酸度 Y1	有機物			塩置換容量 me	置換性塩基			石灰飽和度 %	硫酸吸収係数	有効態磷酸 mg		
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K ₂ O mg					
11.3	85.3	5.0	4.2	4.08	19.66	0.81	2.4	9.02	7978	1179	15.4	31.5	1322	0		
24.5	71.9	5.8	4.7	1.56	6.91	0.52	1.3	23.2	3458	260	27.0	53.1	1146	1.0		
27.5	75.7	5.5	4.5	3.12	2.82	0.22	1.3	9.2	608	219	19.4	23.5	792	1.0		
25.8	83.2	5.2	4.3	6.36	9.32	0.55	1.7	2.73	1219	191	27.8	15.9	1985	1.0		
		5.3	4.3	7.20	9.10	0.49	1.9	3.79	1395	193	25.9	13.1	1220	0.1		
		5.5	4.7	1.68	2.68	0.21	1.3	13.9	311	186	19.8	8.0	2456	0.1		
31.6	71.3	5.6	4.6	1.44	5.05	0.44	1.1	28.4	3627	522	138.6	45.6	760	10.0		
24.9	67.8	5.4	4.2	3.00	3.02	0.30	1.0	22.0	2536	397	106.2	40.8	1057	1.0		
21.0	57.5	4.7	4.5	1.56	0.72	0.10	7	19.4	2044	560	15.1	62.6	915	0		
22.9	74.6	7.1	6.8	0.36	8.63	0.70	1.2	35.7	1400.6	117	43.4	140.0	1278	1.0		
17.7	84.8	5.4	5.1	0.84	19.23	1.12	1.7	56.5	10034	235	28.3	63.4	1455	0.1		
24.8	90.5	4.1	3.9	10.32	27.65	1.39	2.0	70.7	3562	276	35.3	18.0	542	0		
26.0	74.4	5.6	4.4	1.32	4.54	0.44	1.0	20.5	2848	335	56.3	49.5	692	10.0		
22.5	69.8	5.6	4.4	1.44	0.78	0.10	8	10.8	173.1	226	29.5	57.2	807	0		
13.2	62.4	5.9	4.2	1.08	0.39	0.05	8	6.7	782	219	24.5	41.4	547	5.0		
		5.9	4.1	1.44	0.14	0.05	3	9.1	138.1	225	25.2	54.3	127	0		
23.2	75.9	5.4	4.5	2.88	5.50	0.49	1.1	21.8	1770	187	29.4	29.0	1164	5.0		
14.5	75.2	5.4	4.4	2.52	5.76	0.38	1.5	18.9	1400	186	27.2	26.4	1106	5.0		
11.6	81.5	5.4	4.5	2.16	5.03	0.19	2.6	9.7	636	115	34.2	23.5	668	0		
		5.7	4.3	3.60	1.03	0.10	1.0	4.3	302	253	20.3	24.9	742	0.1		
33.8	70.9	6.2	5.4	0.48	3.49	0.31	1.1	17.5	3412	220	32.8	69.7	502	10.0		
44.9	81.3	6.0	4.8	1.44	1.19	0.14	9	9.8	819	220	49.3	29.6	735	10.0		
34.5	71.1	6.0	5.0	0.72	0.74	0.09	8						70	20.0		
33.4	71.5	5.8	4.5	1.20	9.28	0.66	1.4	31.5	5193	528	27.5	58.8	1301	1.0		
14.1	74.1	5.8	4.5	1.08	10.77	0.76	1.4	45.1	6791	543	34.8	53.7	2135	1.0		
		5.9	4.8	1.44	8.04	0.59	1.4	40.4	5350	79	35.2	47.3	2450	0.1		
		6.3	4.6	1.08	2.09	0.25	8	21.8	2518	693	47.5	39.4	1980	0.1		
30.7	71.9	5.9	4.6	1.08	5.57	0.56	1.0	29.0	4269	299	117.5	52.5	1925	1.0		
22.4	71.1	5.6	4.5	1.92	7.63	0.54	1.4	28.2	3735	340	53.0	47.9	1377	0.1		
25.8	70.2	5.8	4.5	2.04	4.20	0.29	1.4	26.9	3299	264	57.0	43.7	1208	0		
		5.9	4.6	1.32	1.06	0.09	1.2	14.9	2370	444	83.0	56.7	1680	0		

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性										
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における理 学 性		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 量 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
豊 幌 保 全 対 策 地 区	豊幌南一区	126	1	~16	5.1	8.8	6.5	43.2	49.7	40.8	9.6	L	70.1	26.9	45
			2	~35	7.8	11.1	2.8	38.5	41.3	51.7	7.0	SIL	66.7	26.2	58
			3	~48	5.4	4.0	0.9	58.8	39.7	52.0	8.4	SIL	81.2	30.2	48
			4	48~	4.8	1.8	0.8	23.1	23.9	36.8	32.4	LIC			
	豊幌南二区	61	1	~16	4.3	10.7	11.8	46.9	58.7	33.6	7.7	L			
			2	~41	6.8	8.7	16.1	53.8	49.9	45.7	4.4	SIL	77.4	28.7	45
			3	~50	5.9	4.9	14.7	34.5	49.2	37.0	13.8	L	74.4	27.3	44
			4	50~	4.4	2.1	20.9	34.9	55.8	33.8	10.4	L			
	古梅南一古梅南	20	1	~20	4.4	10.0	17.2	44.0	61.2	33.5	5.3	L	60.8	24.7	34
			2	~35	6.6	10.9	14.5	44.2	58.5	33.3	3.5	L	68.8	27.4	43
			3	~47	6.6	10.1	24.0	44.5	68.3	29.8	1.8	SL	54.6	22.0	42
			4	~75	4.5	3.9	27.1	51.4	78.5	19.4	2.1	SL			
5			~90	8.7	12.4	9.2	41.7	50.9	42.9	6.1	L				
6			90~	7.4	3.3	12.2	46.2	58.4	38.9	2.7	L				
榮 森 保 全 対 策 地 区	榮森一榮森	16	1	~16	4.3	9.4	4.1	36.3	40.4	33.6	26.0	LIC	81.3	32.5	46
			2	~32	6.1	4.4	0.2	20.2	20.4	33.8	45.8	HC	94.4	34.3	46
			3	~44	6.1	3.6	1.4	23.5	24.9	29.5	45.6	HC	100.3	36.4	47
			4	44~	4.1	1.7	9.1	27.6	36.7	24.7	38.6	LIC			
	美和西一美和西	5	1	~21	4.3	7.2	5.3	34.8	40.1	32.5	27.4	LIC	75.7	29.4	35
			2	~41	3.8	3.0	5.9	56.7	42.6	18.7	38.7	LIC	83.9	31.0	36
			3	~52	3.6	1.7	16.3	38.7	53.0	22.0	23.0	CL	100.2	36.8	37
			4	~65	5.3	5.0	14.4	43.8	58.2	33.0	8.7	L			
			5	65~	4.5	9.5	5.4	42.4	47.8	21.3	30.5	LIC			
	美和東一美和東	4	1	~18	3.5	4.2	2.6	51.4	54.0	28.9	17.1	CL			
			2	~47	3.3	1.2	0.6	62.1	62.7	12.7	17.5	SCL	92.1	37.0	47
			3	~85	3.2	1.1	6.3	69.1	71.4	13.5	11.1	SL	87.3	32.3	37

100cc 容 中		化 学 性													
空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			置 換 容 量 塩 基	置 換 性 塩 基			石 灰 飽 和 度 %	摻 混 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg	
		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K ₂ O mg				
27.4	73.1	6.4	5.1	0.84	5.40	0.34	16	29.6	449.9	33.8	23.2	53.9	1650	5.0	
15.8	73.8	5.5	4.4	6.00	6.98	0.40	17	34.5	193.9	27.1	23.9	20.1	1560	0.1	
21.8	69.8	5.4	4.4	6.00	2.34	0.21	11	20.8	94.4	22.6	34.9	16.2	1730	0	
		5.4	4.2	7.32	1.05	0.09	12	19.8	135.5	78.7	45.2	24.5	1455	0	
26.3	71.3	6.6	5.9	0.36	6.18	0.46	13	30.7	689.8	78.3	7.52	80.2	1000	1.0	
		6.9	6.0	0.24	5.06	0.44	12	32.5	793.6	103.4	137.3	96.9	1765	0.1	
23.6	72.7	6.9	5.8	0.48	2.84	0.26	11	21.5	542.5	45.4	267.9	73.6	1473	0.1	
		6.8	6.0	0.36	1.18	0.10	12	14.5	267.7	37.3	263.6	51.2	1063	0	
40.8	75.3	5.9	4.8	1.08	6.03	0.46	13	21.1	316.7	26.1	12.6	53.4	1216	1.0	
		5.9	4.9	0.96	6.31	0.47	13	22.8	366.4	37.4	12.8	57.4	1456	1.0	
35.5	78.0	6.1	5.1	0.60	5.85	0.47	13	25.0	382.4	54.4	20.3	54.4	2000	1.0	
		6.4	5.4	0.60	2.27	0.19	12	10.0	114.3	33.6	18.8	40.6	1379	1.0	
		6.0	5.2	0.60	7.18	0.54	14	32.0	451.1	58.6	19.7	50.2	2431	0.1	
		6.3	5.3	0.72	1.95	0.17	11	12.6	139.4	38.5	19.4	39.3	1872	1.0	
18.6	67.5	5.9	5.2	0.48	5.43	0.49	11	35.7	720.8	61.7	53.4	71.7	813	1.0	
19.4	65.7	5.9	5.2	0.48	2.54	0.30	9	38.2	728.6	151.8	27.7	79.1	1295	1.0	
14.5	63.6	6.0	5.1	0.48	2.10	0.22	9	35.7	633.1	157.2	25.6	80.1	1350	1.0	
		6.0	5.0	0.60	6.95	0.17	6	51.1	594.2	130.8	41.7	72.4	1643	5.0	
35.5	70.6	5.6	4.9	1.08	4.18	0.40	11	31.1	530.1	85.8	71.1	64.2	694	10.0	
30.5	69.0	5.3	4.4	2.28	1.69	0.20	9	23.5	402.6	65.0	129.0	61.2	309	0.1	
25.8	63.2	5.4	4.4	2.16	0.99	0.12	8	21.4	360.3	75.1	77.8	60.1	645	1.0	
		5.4	4.3	2.16	2.87	0.22	10	33.3					517	0.0	
		5.7	4.5	1.20	0.29	0.09	3	23.0					732	10.0	
18.3	63.0	6.3	5.0	0.60	2.44	0.26	9	22.3	463.3	51.8	70.4	77.3	688	10.0	
30.1	67.7	6.2	5.1	0.72	0.65	0.09	7	18.8					732	10.0	
														995	10.0

3) 採取土壌の性質

土壌 区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
高 野	18	大野政利	5.7	5.5	0.60	2	1	2	2
	21	日々野平吉	5.6	5.0	1.08	3	3	2	3
	22	今尾進清	6.0	5.6	0.60	3	2	1	2
	25	目黒富明	6.2	5.7	0.48	2	2	2	2
	27	久保田	6.0	5.7	0.48	2	2	2	2
	28	川原健太	6.0	5.6	0.48	2	2	2	3
	32	長野重信	5.9	5.0	0.84	2	3	2	2
	39	高橋緑	6.1	5.2	0.48	1	2	2	3
	40	三木勝	6.1	5.1	0.72	2	2	2	3
	44	千葉実	6.0	5.6	0.48	1	2	2	1
中 央	46	松浦新一	6.1	5.5	0.48	2	2	2	3
	47	奈良岡三郎	6.0	5.2	0.72	2	2	1	3
	50	松井由郎	6.2	5.4	0.60	1	2	3	2
	52	折目清	6.5	5.1	0.72	2	2	1	3
	53	東川長義	6.6	5.4	0.60	2	2	2	3
	54	市川上茂	6.5	5.7	0.36	1	2	2	3
	56	西村清松	6.1	5.3	0.48	1	2	2	2
	71	西武市清貞	6.0	5.5	0.72	2	2	2	3
	73	武佐市藤義雄	5.9	5.3	0.72	1	2	1	2
	75	佐藤沼高吉	6.2	5.5	0.48	2	2	1	2
I 三 区	78	柳沼藤高忠	5.9	5.1	0.72	2	2	2	1
	79	佐藤男	5.7	5.1	0.72	2	2	3	3
	80	早坂猛	6.2	5.5	0.36	1	2	1	2
	81	太田秀雄	6.6	5.7	0.36	3	2	2	2
	82	太豊島善一	6.0	5.1	0.72	2	2	2	2
	84	河田宗安	5.9	5.2	0.60	2	2	1	3
	85	田中一馬	5.7	5.0	0.72	2	2	1	3
	86	田中間一豊	5.9	5.0	0.72	2	2	1	2
	87	風橋本長	6.2	5.2	0.72	2	2	1	3
	89	橋岡部三吉	5.9	5.1	0.72	2	2	2	3
区	90	岡山与夫	6.2	5.6	0.60	2	2	1	2
	91	横山貞治	5.6	4.6	0.96	2	2	1	3
	92	岩田郎	6.2	5.5	0.60	1	2	2	3
	93	高橋馨	6.3	5.5	0.60	2	2	1	2
	94	加藤喜平	6.1	4.7	0.96	1	2	1	3

土壌 区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
高 野	95	横山万弥	6.4	4.7	0.84	2	2	1	3
	96	加藤政義	6.7	5.4	0.60	2	2	3	2
	97	寺崎実夫	5.7	4.8	0.84	2	2	2	3
	98	高見俊夫	5.8	4.9	0.72	3	2	2	3
	99	宮下喜作	6.3	4.7	0.84	2	2	2	3
	100	太田喜富	5.9	5.2	0.60	3	3	3	3
	101	馬場由美	6.2	4.7	0.84	2	2	1	3
	102	高橋永吉	6.4	5.0	0.60	3	2	2	3
	103	寺崎澄	6.6	5.1	0.36	2	2	2	3
	104	寺崎農一	6.2	5.3	0.48	2	2	2	2
中 央	105	森出勝雄	6.1	5.2	0.72	2	2	1	3
	106	日並吉雄	5.9	5.0	0.84	2	3	1	2
	107	日並有安	6.3	5.1	0.60	2	2	2	3
	108	吉岡武蔵	6.4	5.5	0.36	3	2	2	3
	109	塩田栄夫	5.9	5.0	0.72	3	2	2	3
	110	溜井本三	5.7	4.9	0.84	2	2	1	2
	111	橋本長一	6.1	4.9	0.84	2	2	1	3
	112	千葉孝一郎	5.9	5.0	0.96	2	2	2	2
	113	和田清	5.9	5.1	0.48	1	1	1	1
	114	寺崎農一	5.8	5.1	0.72	2	2	3	3
I 三 区	115	日松並本	6.1	5.0	0.60	2	2	2	3
	116	松本強常	5.7	4.8	0.96	2	2	3	2
	118	山口清	5.6	4.9	0.96	2	2	3	2
	119	山高橋馨	5.7	4.9	0.96	2	2	1	2
	120	高高橋永吉	5.9	5.0	0.72	2	2	2	3
	121		5.7	4.9	0.96	2	3	2	3
	122	大西喜久夫	5.6	4.9	0.96	2	2	1	1
	123	大屋春夫	6.3	5.1	0.48	2	2	2	1
	124	大岡方昇	6.0	5.1	0.72	2	2	1	1
	130	高崎忠夫	6.4	5.4	0.72	2	2	2	3
区	131	高寺崎登	6.0	5.2	0.84	2	2	2	3
	133	寺井原	6.3	5.2	0.60	2	3	2	3
	135	田端秀朝	6.0	5.2	0.60	2	2	2	3
	136	渡辺喜平治	6.1	5.2	0.72	2	2	1	3
	137	神作忠一	6.4	6.0	0.48	2	2	2	1
	140	小池敏雄	5.8	4.6	1.20	2	2	2	3
	143	岩原喜太郎	6.6	5.6	0.48	2	2	2	2

土壤区名	地点番号	農家名	反 応		Y ₁	矢木式指数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
高野中央一三区	144	鈴木光男	5.4	4.6	1.44	2	3	2	3
	145	疋田芳三郎	5.6	5.0	0.96	2	2	2	3
	148	景山春光	6.3	5.2	0.48	2	2	2	3
	149	村山上幸吉	5.9	4.9	0.84	2	2	3	3
	152	牛原利勝	5.8	5.1	0.72	2	2	2	3
	153	高植橋長治	6.0	5.2	0.72	2	2	2	2
	154	高植村弘	6.4	5.3	0.72	2	2	2	3
高野中央一四区	37	館野長吉	5.4	5.0	0.96	1	2	3	2
	41	浜谷秀夫	6.0	5.3	0.84	2	2	2	3
	45	菅原	6.2	5.2	0.60	1	2	2	1
	59	向宗助	5.8	4.7	1.32	3	2	2	2
	62	池野十九	6.2	5.2	0.60	2	2	2	1
	63	白野井	6.5	5.4	0.36	1	2	3	2
	64	星幸一郎	6.1	5.3	0.48	1	2	2	2
	66	山本正次郎	6.3	5.5	0.48	2	2	2	2
	67	山安藤貞雄	6.5	5.5	0.48	2	2	3	1
	68	齐藤良昭	5.7	4.9	1.20	1	2	2	2
	69	增田昭一	6.2	5.1	0.60	1	2	3	3
72	橋本和一也	5.8	4.9	0.48	2	2	2	2	
登栄中央一二区	30	秋山常利	5.9	5.5	0.36	2	2	1	3
	33	越智秋雄	6.2	5.8	0.36	1	2	2	1
	51	讚岐勝一	5.5	4.7	1.20	1	2	2	3
	83	西島俊一	5.9	5.2	0.60	2	2	3	2
	125	增加川益夫	5.5	4.4	1.32	1	2	2	2
138	增加藤吉	5.6	5.0	0.72	2	2	3	3	
登栄南一二区	61		6.6	5.8	0.36	1	2	2	1
	65	近藤勝	6.0	4.9	0.96	1	2	3	3
	129	大藤理一	5.8	5.3	0.48	2	2	2	1
	134	大屋理忠	5.6	4.3	1.56	2	2	2	1
	141	高上明	6.1	4.8	0.96	2	2	2	3
	142	上原栄一	6.2	5.1	0.74	2	2	3	2
147	峰友次	6.1	4.8	0.72	2	2	2	3	
151	加藤慶一	5.8	4.5	1.20	2	2	2	3	
美富西一二区	55	奈良正雄	5.2	4.5	2.52	2	2	2	3
	70	堀場幸吉	5.0	4.2	3.12	3	2	2	2
	74	坂本幸八	4.3	3.9	10.56	3	2	3	2
	76	柳沼信之	5.3	4.5	3.24	3	2	2	2

土壤区名	地点番号	農家名	反 応		Y ₁	矢木式指数				
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O	
美富西一二区	77	橋本利夫	5.1	4.6	1.92	1	3	3	3	
	156	瀬尾武雄	6.3	4.8	0.96	1	2	2	3	
美富西三区	36		5.3	4.6	1.80	1	2	2	3	
	38	江本唯吉	5.5	4.6	1.20	1	2	2	2	
	42	作田幸太郎	5.8	4.7	0.96	2	2	2	2	
野野南	158	門別仲市	5.3	4.4	2.16	2	2	1	3	
	159	瀬尾武一	5.8	4.4	1.32	1	2	3	1	
	160	上田誠太郎	5.3	4.3	4.32	2	2	3	3	
美和東一	60	石川達一	5.8	4.7	1.20	2	2	2	1	
美和東二	128	齊藤司	6.5	5.4	0.48	2	2	3	3	
美和東一	26	北光生産組合	6.0	5.4	0.36	2	2		2	
栄森一栄森	1	楠原勇	5.3	4.5	1.44	1	3	1	2	
	7	中川繁松	5.9	5.4	0.36	1	2	1	2	
	9	高田義夫	5.2	4.8	0.84	1	2	2	3	
	10	多田茂一	5.3	4.7	0.84	1	2	1	2	
	11	岡久春己	5.4	4.6	1.32	1	2	2	1	
	12	田中ウキタ	5.7	5.4	0.60	1	2	2	2	
	13	長野音若	5.4	4.8	0.96	1	2	2	2	
	14	山林勝也	5.7	5.1	0.72	1	2	2	2	
	15	林崎幸一	5.5	4.9	0.84	1	2	2	2	
	16	立崎辰四郎	5.8	5.5	0.48	1	2	1	2	
	17	菅原辰四郎	6.1	5.8	0.36	1	2	1	3	
	美和東一	2	小島藤太郎	6.0	5.5	0.36	1	2	1	1
		4	田中宇喜太	6.1	5.6	0.60	1	1	1	2
		6	寺本弘	5.9	5.1	0.48	1	2	1	2
		8	水原新太郎	6.2	6.0	0.36	1	2	1	2
		157	成田才吉							
	美和西一	3	細山義男	6.1	5.7	0.36	1	3	2	2
5		石川一郎	5.5	5.0	0.72	1	2	1	2	
古梅南一古梅南	19	小林徳寿	5.4	5.0	0.90	2	3	1	3	
	20	大平政雄	5.8	5.2	0.84	2	2	2	3	
	23	北光生産組合	6.2	5.9	0.48	1	2	3	2	
	24	北光生産組合	5.7	5.2	0.72	3	2		2	
美和西一	31	鈴木義春	6.1	5.5	0.36	1	2	2	2	
	34	山崎孝一	6.0	5.3	0.72	1	2		1	
古梅中央一古梅中央	29	石原栄次	5.1	4.6	1.80	1	2	3	2	
	35	田中圀久	5.6	4.7	1.08	2	2	2	2	

土壤 区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数			
			PH	PH		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
			(H ₂ O)	(KCl)					
高野中央一三区	144	鈴木光男	5.4	4.6	1.44	2	3	2	3
	145	疋田芳三	5.6	5.0	0.96	2	2	2	3
	148	景山春光	6.3	5.2	0.48	2	2	2	3
	149	村上幸吉	5.9	4.9	0.84	2	2	3	3
	152	牛原利勝	5.8	5.1	0.72	2	2	2	3
	153	高橋長治	6.0	5.2	0.72	2	2	2	2
	154	植村弘	6.4	5.3	0.72	2	2	2	3
高野中央一四区	37	館野長吉	5.4	5.0	0.96	1	2	3	2
	41	浜谷秀夫	6.0	5.3	0.84	2	2	2	3
	45	菅原	6.2	5.2	0.60	1	2	2	1
	59	向宗助	5.8	4.7	1.32	3	2	2	2
	62	池野十九	6.2	5.2	0.60	2	2	2	1
	63	白野井	6.5	5.4	0.36	1	2	3	2
	64	星幸一郎	6.1	5.3	0.48	1	2	2	2
	66	山本正次郎	6.3	5.5	0.48	2	2	2	2
	67	安藤貞雄	6.5	5.5	0.48	2	2	3	1
	68	斉藤良作	5.7	4.9	1.20	1	2	2	2
	69	増田昭一	6.2	5.1	0.60	1	2	3	3
72	橋本和一也	5.8	4.9	0.48	2	2	2	2	
登栄中央一二区	30	秋山常利	5.9	5.5	0.36	2	2	1	3
	33	越智秋雄	6.2	5.8	0.36	1	2	2	1
	51	讚岐勝一	5.5	4.7	1.20	1	2	2	3
	83	西島俊夫	5.9	5.2	0.60	2	2	3	2
	125	増川益夫	5.5	4.4	1.32	1	2	2	2
	138	加藤吉雄	5.6	5.0	0.72	2	2	3	3
登栄南一二区	61		6.6	5.8	0.36	1	2	2	1
	65	近藤勝	6.0	4.9	0.96	1	2	3	3
	129	大林蕉	5.8	5.3	0.48	2	2	2	1
	134	大屋理一	5.6	4.3	1.56	2	2	2	1
	141	高崎明	6.1	4.8	0.96	2	2	2	3
	142	上原栄	6.2	5.1	0.74	2	2	3	2
147	高峰友	6.1	4.8	0.72	2	2	2	3	
151	加藤慶	5.8	4.5	1.20	2	2	2	3	
美富西一二区	55	奈良正雄	5.2	4.5	2.52	2	2	2	3
	70	堀場幸吉	5.0	4.2	3.12	3	2	2	2
	74	坂本国八	4.3	3.9	10.56	3	2	3	2
	76	柳沼信之	5.3	4.5	3.24	3	2	2	2

土壤区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数				
			PH	PH		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O	
			(H ₂ O)	(KCl)						
美富西一二区	77	橋本利夫	5.1	4.6	1.92	1	3	3	3	
	156	瀬尾武雄	6.3	4.8	0.96	1	2	2	3	
美富西三区	36		5.3	4.6	1.80	1	2	2	3	
	38	江本唯吉	5.5	4.6	1.20	1	2	2	2	
	42	作田幸太郎	5.8	4.7	0.96	2	2	2	2	
野崎南	158	門別仲市	5.3	4.4	2.16	2	2	1	3	
	159	瀬尾武一	5.8	4.4	1.32	1	2	3	1	
	160	上田誠太郎	5.3	4.3	4.32	2	2	3	3	
美和東一四区	60	石川達一	5.8	4.7	1.20	2	2	2	1	
美和東二区	128	斉藤司	6.5	5.4	0.48	2	2	3	3	
美和東一四区	26	北光生産組合	6.0	5.4	0.36	2	2		2	
栄森一栄森	1	楠原勇	5.3	4.5	1.44	1	3	1	2	
	7	中川繁松	5.9	5.4	0.36	1	2	1	2	
	9	高田義夫	5.2	4.8	0.84	1	2	2	3	
	10	多田茂一	5.3	4.7	0.84	1	2	1	2	
	11	岡久春己	5.4	4.6	1.32	1	2	2	1	
	12	田中ウキタ	5.7	5.4	0.60	1	2	2	2	
	13	長野音若	5.4	4.8	0.96	1	2	2	2	
	14	山田忠	5.7	5.1	0.72	1	2	2	2	
	15	林勝也	5.5	4.9	0.84	1	2	2	2	
	16	立崎幸一	5.8	5.5	0.48	1	2	1	2	
	17	菅原辰四郎	6.1	5.8	0.36	1	2	1	3	
	美和東一	2	小島藤太郎	6.0	5.5	0.36	1	2	1	1
		4	田中宇喜太	6.1	5.6	0.60	1	1	1	2
		6	寺本弘	5.9	5.1	0.48	1	2	1	2
		8	水原新太郎	6.2	6.0	0.36	1	2	1	2
	157	成田新才吉								
	美和西一	3	細山義男	6.1	5.7	0.36	1	3	2	2
5		石川一郎	5.5	5.0	0.72	1	2	1	2	
古梅南一古梅南	19	小林徳寿	5.4	5.0	0.90	2	3	1	3	
	20	大平政雄	5.8	5.2	0.84	2	2	2	3	
	23	北光生産組合	6.2	5.9	0.48	1	2	3	2	
	24	北光生産組合	5.7	5.2	0.72	3	2		2	
美和西一	31	鈴木義春	6.1	5.5	0.36	1	2	2	2	
	34	山崎孝一	6.0	5.3	0.72	1	2		1	
美和中央一古梅中央	29	石原栄次	5.1	4.6	1.80	1	2	3	2	
	35	田中围久	5.6	4.7	1.08	2	2	2	2	

土壤 区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
古梅中央 古梅中央	43	藤原俊雄	6.5	6.0	0.48	1	3	2	3
	48	馬場多一	5.2	4.5	2.88	3	2	3	3
	49	津田義	5.8	5.1	0.84	2	2	2	3
	57	橋本幸夫	6.0	5.2	0.48	1	2	3	2
	58	佐藤正信	5.5	4.5	2.52	2	2	2	3
	88	柳沼政儀	5.8	5.2	0.84	2	2	3	3
	117	中瀬島政謙	5.3	4.5	1.44	2	2	1	3
	132	瀬林智幸雄	5.1	4.3	3.84	2	2	2	3
瑞治 瑞治	126	熱海常吉	4.7	4.2	5.16	1	2	3	1
	127	秋保安五郎	7.0	6.6	0.24	1	2	2	3
	139	杉瀬満	4.9	4.0	11.28	3	3	3	3
	146	松田富雄	4.9	4.1	8.88	2	2	2	3
	150	清野亨	4.6	4.1	8.28	2	2	2	3

註) 矢木式指数の1は富む、2は含む、3は欠く

